

LAMBETH  
CONFERENCE  
神の世界のための神の教会



# ランベスの呼びかけ



## はじめに

Lambeth Conferenceは「神の世界のための神の教会 – ともに歩き、聞き、証をする」というテーマについて考えるために開催されました。

会議で主教らは、教会と世界の問題に関するテーマについての10のランベスの呼びかけについて話し合いました。

ランベスの呼びかけのテーマは次のとおりです。

- 弟子育成
- 環境と持続可能な開発
- アングリカンのアイデンティティ
- セーフ・チャーチ
- 科学と信仰
- 人間の尊厳
- キリスト教一致
- 宣教と伝道
- インターフェイス(異教徒間関係)
- 和解

ランベスの呼びかけは、次のような構成で作成されています。

- 宣言:キリスト教会が呼びかけのテーマについて一般的に教えてきたことを要約したもの。
- 確言:主教が現在の問題について言いたいことを要約したもの。
- 今後の証への具体的要請(呼びかけ):主教が互いに、仲間のクリスチャンに、そして世界に望む行動や挑戦を共有すること。

ランベスの呼びかけは、2022年7月から8月の会議で主教に提示されました。それぞれのランベスの呼びかけは、大主教や高位主教が率いる、アングリカン・コミュニオンの主教、聖職者および信徒からなる起草グループによって作成されました。

2023年発行のランベスの呼びかけのこの版は、2022年のLambeth Conferenceで主教から得られたフィードバックに基づいて起草グループが行った更新を盛り込んだものです。これら呼びかけは、キリスト教暦年の時節や主要な国際的イベントとより密接に結びつけるために、会議での呼びかけとは異なる順序で提示されています。

そして、これらはLambeth Conferenceジャーニーのフェーズ3に引き継がれることになります。

Lambeth Conferenceは「コミュニオンのインストルメント」の一つであり、そのため、ランベスの呼びかけはアングリカン・コミュニオンへの贈り物として提供されます。これらは、教会やコミュニティで検討され、地域の環境に最も適用可能な方法で進められることを意図したものです。

詳細については、ウェブサイトにある [the Lambeth Calls and Phase 3 of the conference journey \(ランベスの呼びかけとコンファレンスジャーニーのフェーズ3\)](#)、および [History and Purpose of the Lambeth Conference \(Lambeth Conferenceの歴史と目的\)](#) を御覧ください。

それぞれの呼びかけの目標は、神への誠実さを深め、コミュニオンの聖務を前に進め、世界中の教会やコミュニティによる呼びかけへのより多くの参加を可能にすることです。



## 内容

弟子育成についてのランベスの呼びかけ	4
環境と持続可能な開発についてのランベスの呼びかけ	7
アングリカンのアイデンティティについてのランベスの呼びかけ	13
セーフ・チャーチについてのランベスの呼びかけ	17
科学と信仰についてのランベスの呼びかけ	20
人間の尊厳についてのランベスの呼びかけ	23
キリスト教一致についてのランベスの呼びかけ	28
宣教と伝道についてのランベスの呼びかけ	31
インターフェイス(異教徒間関係)についてのランベスの呼びかけ	33
和解についてのランベスの呼びかけ	36



# ランベスの呼びかけ 弟子育成

## 1 はじめに

- 1.1 弟子とは、心、体および精神の学習者です。以下の呼びかけは、Lambeth Conferenceに集まった主教が、すべてのアングリカン・キリスト教徒に対し、それぞれの生活のあらゆる面で、イエス・キリストの愛があり、自由で、生命を与えるやり方を繰り返し学び、これについて主に従うことを求めるものです。主教がこの呼びかけを行うのは、次のようにペトロの手紙一がすべての神の民に対し、身を慎み、全人生にわたる弟子となることを求めているからです。

*それゆえ、あなたがたは心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストが現れるときに与えられる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。従順な子として、かつて無知であった頃のさまざまな欲望に従わず、あなたがたを召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も生活のあらゆる面で聖なる者となりなさい。「聖なる者となりなさい。私が聖なる者だからである」と書いてあるからです。(ペトロの手紙一1:13~16)*

- 1.2 これは厳しい求めです。なぜなら、私たちには、皆が直面する社会的・精神的戦いから来るプレッシャーがあるからです。しかし、手紙は、私たちが神の助けに頼ることができ、そして頼るべきであると次のように記しています。

*語る人は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して、神が崇められるためです。栄光と力とが、世々限りなく神にありますように、アーメン。(ペトロの手紙一4:11)*

ですからこの呼びかけは、すべてのアングリカン・キリスト教徒に対し、それぞれの生活のあらゆる面で、「神がお与えになった力に応じて」、聖霊によって与えられた力で、イエス・キリストの道を繰り返し学ぶことを求めるものです。

## 2 宣言

- 2.1 イエスは弟子たちに、「だから、あなたがたは行って、すべての民を弟子にしなさい」と教えました。今日のアングリカン・コミュニオン規模と広がり、世界中のアングリカン・キリスト教徒が、情熱と覚悟を持って歴史にわたりこのことを行ってきたことを示しています。

- 2.2 しかしながら、キリスト教徒の覚悟は、「幅は1マイルあるが、深さはたった1インチである」という人もいます。たとえば、多くの場所では、キリスト教徒の覚悟は名目的であると見られてきました。これに対応するために、2016年にルサカで開催されたアングリカン諮問評議会において、意図的弟子育成期間 (Jesus-shaped life (イエスの形の生活)) が開始されました。

*弟子育成のための福音と神学的義務を踏まえて、(私たちは) アングリカン・コミュニオンのすべての管区・主教区・教区が意図的弟子育成に注意を向け、教会全体が新たにイエス・キリストの弟子を育成できるよう制度を整備することの必要性を認める。(ACC-16決議16.01) 。*

- 2.3 これは2019年に香港で開催されたACC-17で再確認されました。この期間は2026年のACC-19までの予定です。これまでにアングリカン・コミュニオンの100を超える主教区と42もの管区が意図的弟子育成を重要優先事項として正式に採用したり、このテーマに関する会議やワークショップを開催したりしています。少人数のグループによるものが中心です。アングリカン・コミュニオンはこの期間およびJesus-shaped life (イエスの形の生活) を支えるための多くのリソースを開発しています ([www.anglicancommunion.org/mission/intentional-discipleship.aspx](http://www.anglicancommunion.org/mission/intentional-discipleship.aspx))。

- 2.4 世界中の他の多くの教会も、弟子育成を充実させる必要性に対応しています。世界教会協議会の2018年の弟子育成に関するアルーシャ呼びかけは、アングリカン・キリスト教徒も参加して実現した呼びかけですが、このことを力強く表現しており、その中で、「私たちは洗礼により弟子育成を変革することを求められています。多くの人々が絶望や拒絶、孤独、無価値観に直面する世界においてキリストとつながる生き方ができるように」と宣言しました。<sup>ii</sup> ローマ教皇フランシスコもすべての神の民が伝道に献身する弟子になるよう呼びかけ、この呼びかけをその聖務の中心に置いています。<sup>iii</sup>
- 2.5 意図的弟子育成期間に入り多く分かってきたことは、宣教の5つの指標が、キリストの方法を学び、それに従うための刺激となり、統一的な案内になるということでした。したがって以下の呼びかけは、アングリカン・キリスト教徒がそれにより形作られ、Jesus shaped life (イエスの形の生活) にますます生き、共有できるよう呼びかけるものです。

### 3 確言

Lambeth Conferenceに集まった私たち主教は、この意図的弟子育成期間において、私たちの生活のあらゆる面で、神がお与えになった力に応じて、イエス・キリストの愛があり、自由で、生命を与える方法を、祈りと言葉と sacrament を通じて繰り返し学ぶことに努力を傾けます。そうすれば、聖霊によって私たちがイエスに従うことを新たにでき、私たちの主教区の人々も同じことをするように励まされます。

### 4 具体的要請(呼びかけ)

- 4.1 私たちはすべてのアングリカン・キリスト教徒に対し、この意図的弟子育成期間において、私たちの生活のあらゆる面で、神がお与えになった力に応じて、イエス・キリストの愛があり、自由で、生命を与える方法を、祈りと言葉と sacrament を通じて繰り返し学び、そのことにより聖霊によって私たちがイエスに従うことを新たにでき、私たちは他の弟子たちを育成することができるようにすることを呼びかけます。これには生涯の学習が必要であり、私たちの使命であると認識しています。私たちは特にアングリカン・キリスト教徒に対し、アングリカン・コミュニオン生活のルールとして、宣教の5つの指標により、常に思慮深く、文脈的に適切な表現を通じて習得する習慣として形づくられるよう次のように呼びかけます。
- 話す - 御国の福音を告げ知らせる。
  - 教える - 新たな信者に教え、洗礼し、育てる。
  - 仕える - 癒しの務めを含め愛ある奉仕によって人間のニーズにこたえる。
  - 変える - 社会の不公正な構造を変え、あらゆる暴力に挑戦し、平和と和解に取り組む。
  - 大事にする - 被造物の完全性を守り、地球の生命を維持し新たにします。
- 4.2 私たちはすべての指導者、信徒および聖職者に対し、私たちの礼拝と典礼が意図して私たちの心、体および霊の中で形作られ、変容する場となることを可能にし、特に洗礼礼拝の契約に焦点を当て、Jesus-shaped life (イエスの形の生活) を送り、そのことにより、新たに洗礼を受けた人々が、キリストとともにある新しい生活の中で、会衆の支援を確実に受けることができるように呼びかけます。
- 4.3 私たちは主教区に対し、弟子育成における形成のためにも教区が小さいグループを設立・拡大することを助け、職場や学校、コミュニティを含め、それぞれの状況に適した、オンラインおよび対面での、日常生活での弟子育成への他の「入り口」を提供し、支援することを呼びかけます。小さな子供の信仰育成のためのリソースも必要です。
- 4.4 私たちは私たちの教会のすべての人々に対し、若者たち、学校、会衆および地域社会との深い関係を意図して維持し、弟子育成における上位の人々から、そして女性から、社会から取り残された人々や貧しい人々から学び、そのことによって、この学びと変革が教会全体で起き、すべての人がキリストからの賜物を見つけ、キリストに従いつつそれらを効果的に使うことができるようすることを呼びかけます。



- 4.5 私たちはすべての神学校、神学大学、そして研修課程に対し、弟子育成を中心に据えるよう求め、学習と教育のプログラムを再構成し、すべての聖職者、新任聖職者と平信徒が、特に説教を通じて、そのようなことを学ぶことができるように呼びかけます。
- 4.6 私たちはアングリカン・コミュニオン・セクレタリー・ジェネラルに対し、意図的弟子育成期間のコミュニオン全体での促進を通じて、宣教・弟子育成委員会の支援を得て、これらの分野の進展を促して支援し、管区が積極的に意図的弟子育成を進める間、次回ACCおよび次回Lambeth Conferenceで報告するよう呼びかけます。

## 5 実施

この呼びかけを受け、実施するにあたって、管区や主教区は、具体的な作業を行う必要があります。たとえば、どのような小規模グループの形成がそれぞれの環境で最も効果的か。チャーチ・プランティングの可能性は何か。大学、神学校、プログラムが卒業生に徐々に浸透するために必要な能力は何か。

## 後注

- i. ACC-16決議16.01
- ii. R. Jukko and J. Keum, *Moving in the Spirit* (霊の下で動く): WCC 2019
- iii. *Evangelii Gaudium* (エヴァンゲリ・ガウディウム: 福音の喜び), 2017





# ランベスの呼びかけ 環境と持続可能な開発

## A. 環境

### 1 はじめに

- 1.1 私たちは、息をのむような美しさ、驚くべき豊かさ、そして互いに複雑につながった世界に恵まれてきました。それは、神が良しとし、愛する世界です。
- 1.2 その世界は今危機に瀕しています。気候変動や生物多様性の喪失、環境汚染は人と地球の脅威となっています。これらの環境問題に加えて、そしてしばしばそれが原因となって、貧困、不平等、不公正、そして紛争が存在し、それぞれが何百万人もの人々の生活を損なっています。
- 1.3 しかしそれでもまだこれは神の世界であり、神は私たちに、イースターの人、希望を運ぶ人として、これに答えるよう召しています。
- 1.4 Lambeth Conferenceではペトロの手紙一を研究しました。この聖書で、私たちは、「清い心で深く愛し合い」(ペトロの手紙一1:22)、もてなし合い、そして管理者として互いに仕えるように召されています(ディアコニア)(ペトロの手紙一4:9~10)。これらのことは互いのため、そして私たちの共通の家である地球のために非常に大事です。
- 1.5 神は、その独り子をお与えになったほどに、世(コスモス)を愛された(ヨハネによる福音書3:16)。大地の上で、イエスは自然界に平和と慰めを見出し、その教えのインスピレーションを得ました。イエスは、森羅万象に和解をもたらすために十字架の上で死にました。キリストの内に、「神は、御心のままに／満ち溢れるものを／余すところなく御子の内に宿らせ、その十字架の血によって平和を造り／地にあるものも／天にあるものも／万物を御子によって／ご自分と和解させてくださったのです。」(コロサイの信徒への手紙01:19~20)
- 1.6 環境問題は巨大ですが、キリスト教徒のストーリーは贖罪、復活、変容、希望のストーリーです。イエスは弟子たちに、すべての被造物との和解の道に従うよう呼びかけています。そして聖霊を通して、私たちはそうする力を与えられています。

### 2 宣言

- 2.1 アングリカン・キリスト教徒は、聖書と教会の教え、そして宣教の5つの指標に従います。これらは、意図的弟子育成に対する明確なビジョンと全体的枠組みであり、神の世界のための神の教会となるためのものです。それらは私たちに、御国の福音を告げ知らせ、弟子たちを育て、人々と地球、公正、平和、弱者への配慮を表明し、そして被造物を守る義務を果たすことを求めており(創世記2:15)、そして地球の生命を維持し、新たにすることを求めています(第5の宣教の指標)。
- 2.2 したがってアングリカン・キリスト教徒は、人間の健康や被造物への心配りを真剣にするだけでなく、これらを務めとし、「義の宿る新しい天と新しい地」をいかにして共有するか心に配りをします(ペトロの手紙二3:13)。
- 2.3 被造物の完全性は崩壊の脅威と危険にさらされています。第5の宣教の指標をアングリカン・キリスト教徒として私たちの生活の中心に置く必要性はかつてないほど大きくなっています。支配神学(Theologies of dominion)は、搾取行動や抽出行動を正当化するために用いられており、現在の環境危機に影響を及ぼしています。私たちは、これらの危険な神学によってなされた罪深い損害を悔い改め、変わることに努力し、そして他の人々にも悔い改めることを呼びかける必要があります。

- 2.4 アングリカン・コミュニオンは、国連ミレニアム開発目標に確固として取り組むことを表明しアングリカン連合を誕生させた、2008年のLambeth Conferenceの遺産を基盤にします。また、国連持続可能な開発目標 (<https://sdgs.un.org/goals>) を踏まえてこの取り組みを再確認したACC17も基盤にします。
- 2.5 コミュニオンの各管区は、地域・国家・地球規模の社会・環境問題に引き続き対応していきます。危機は機会をもたらすものとして、教会は神の声を聞き、世界が互いに互いに異なり得るかを想像し、そして神の国に向かって築き上げられるよう取り組みます。
- 2.6 しかし、気候変動、生物多様性の喪失、環境汚染という3つの環境危機は、世界中の何十億もの人々や植物や動物の大きな脅威となっています。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) は、「人間にとっての緊急事態」であると警告しており、「今すぐ地球温暖化を1.5°Cに制限しないと手遅れになる」としています。<sup>i</sup> ネットゼロ目標を達成するには、温室効果ガスの排出量を削減するために、今後3年間で徹底的な対策が必要です。
- 2.7 アングリカン・コミュニオンは、国境を越えた共通のアイデンティティを持ち、世界規模でつながっている団体として独自の視点を持っています。アングリカン・コミュニオンの加盟教会は、このような環境の緊急事態にあらゆる面で関わっています。私たちは被災したコミュニティで荒廃に直面しています。私たちは、特に裕福な国に住む人たちは皆汚染源です。私たちは貧困状態やぎりぎりの生活をしています。私たちは権力や政治的影響力を振ります。私たちは土地や家、生活環境を失っています。私たちは金融資本を持つ投資家です。私たちは災害があったとき最初に駆けつけ、復興と回復への過程でもコミュニティとともにあります。
- 2.8 私たちは問題の原因を作り出しています。私たちは解決策を作り出しています。私たちはローカルでもありグローバルでもあります。私たちは互いにつながり、経験を共有し、そのネットワークとアングリカンのアイデンティティを活用して行動を起こします。私たちは1つの観点だけでなく、多くの観点をもって話します。私たちは他者と話すだけでなく、自分自身とも話します。私たちは皆神の被造物の網の一部です。「天にあるものも地にあるものも／見えるものも見えないものも／王座も主権も／支配も権威も／万物は御子において造られたからです」(コロサイの信徒への手紙1:16)。そして私たちは今、全人類のために、すべての被造物のために、そして私たちの共通の家である地球のために共に行動することが求められています。
- 2.9 次回 Lambeth Conference までには、コミュニオンの中でも住めなくなる地域が増えるでしょう。干ばつや海面上昇など、気候変動の限界点に近づきつつあるからです。一方、このような恐ろしい現実にもかかわらず、二酸化炭素排出量は増加し続け、パイプラインに沿って5万件を超える化石燃料開発事業が実施されています。<sup>ii</sup> 海と川はプラスチックで埋まり、人々は汚染された空気で窒息し、亡くなっています。生命の網は、森林破壊、乱獲、持続可能でない農業生産など生物多様性の喪失によって非常に傷つき、被造物の完全性が脅威にさらされています。
- 2.10 世界の対応はこれまで全く不十分なものでした。対応に注がれたリソースの量という点でも、また、大きな変化を起こせる国々が行動を起こすスピードという点でも。





### 3 確言

- 3.1 私たち自身にとっても、そして将来の世代にとっても、私たちは今すぐ、緊急に、そしてある程度の規模をもって行動する必要があります。
- 3.2 しかし、行動は、そこに流れる心や気持ちの変革なくして、それを維持することは困難です。気候危機は単に物理的な危機ではありません。それはまた強欲、無感情そしてわがままにより強められた精神的なものでもあります。
- 3.3 人間は、精神的・文化的な変革が必要です。私たちは地球を違った見方で見なければなりません。地球と自然すべてを搾取するものと見なすような搾取的世界観を改め、そして拒否し、その代わりに関係的世界観をキリストの教えの中心で取り入れなければなりません。これはとりわけ、万物の奥深い相互依存関係を尊ぶ先住民族が信奉しているものです。

### 4 具体的要請(呼びかけ)

- 4.1 私たちは、主教としての私たち自身に、そして私たちの管区・主教区・教区の人々に対し次のことを呼びかけます。
  - 4.1.1 地球上のすべての生命の深い相互依存性を認識し、地球に大きな害を与え、人々に不公平をもたらしてきた支配的行動と支配的神学理論を改めることにより、神のすばらしい被造物を大事にすること。
  - 4.1.2 つの環境危機を文化的・精神的価値の危機として認識し、教会の届く範囲と影響力を基礎として、自然界の搾取から、キリスト教の伝統的知恵と先住民により具現される関係と責務の活用へと、私たちの考えを変革することを私たち自身と人間に求めること。
  - 4.1.3 第5の宣教の指標を次のやり方で私たちの教会の生活に統合すること:この呼びかけを私たちの主教区と教区構造に持ち込むこと。環境の問題について私たちの人々に教えること。創造典礼を受け入れ、創造の季節のように祈り、嘆きで答えること。気候正義を訴える若者や女性の予言的な声を取り上げること。気候変動の最前線で主教区と連帯のパートナーシップを作り上げること。
  - 4.1.4 地域社会が災害に耐え、災害から回復できるようにその回復力を育むとともに、気候変動が特に女性や将来の世代に影響を及ぼすことを考えて、若者の予言的な声と地球の保護者としての女性の重要な役割を支援すること。
  - 4.1.5 コミュニオン・フォレスト・イニシアチブに参加して、地球上の森林やその他の生態系を保護・復元するとともに、精神的成長の記念として、堅信時やその他人生の節目、宗教行事の際の植樹を促進すること。
  - 4.1.6 地球や人々にとって良い知らせとするために、私たちは私たちの資産を倫理面に配慮して地球や人々のために活用・投資するとともに、急ぎのこととして、私たちの資金を新たに開始される化石燃料探査事業から引き上げ、再生可能エネルギー資源に投資すること。
  - 4.1.7 私たちのライフスタイルへの影響を認識し、私たちの生活様式を変えることに取り組み、旅行、消費、エネルギーの使用を削減すること。
- 4.2 私たちはコミュニオンのインストルメンツに次のことを呼びかけます。
  - 4.2.1 気候変動、生物多様性喪失、環境汚染という3つの環境危機への緊急の取り組みを支援し、主教区の取り組みにリソースを提供すること。
  - 4.2.2 国際社会と協力し、公正性の問題として、気候変動による損失や損害に対して必要な金銭面での取り組みを行うとともに、コミュニオン内で予言的に発言・行動することを提唱し、もってその連帯を示すこと。



4.3 私たちは世界の指導者たちに次のことを呼びかけます。

4.3.1 大胆かつ至急に次のように政策変更を行うこと。

- カーボン・ネットゼロをできるだけ早く達成し、世界の平均気温上昇を産業革命前のレベルから1.5度以内に抑えること。
- 気候変動による損失や損害など、気候ファイナンスに対する取り組みを実施し、大幅に強化すること。
- 新たなガスと石油の探査を停止し、同時に新興国がクリーンで再生可能なエネルギーへの公平な移行ができるように資金提供すること。
- 生物多様性の保護・回復と環境汚染への取り組みを行うこと。

4.3.2 豊かな国や気候変動に対する責任が最も大きい国々に対し、気候変動対策を主導するとともに、排出ガス削減のために他国に対し正当に資金供給するよう求めること。

4.3.3 クリーンエネルギーへの移行や持続可能な土地利用、食料制度への移行に向けた国際協力と大胆な目標を支持すること。

4.3.4 気候危機の規模と緊急性は、政治が科学に基づく行動を優先しなければならないほど重大であり、社会の相互依存性と自然界のことに配慮するという倫理的要請に根ざしたものでなければならないことを認めること。

4.3.5 被造物の価値と保護についての宗教コミュニティ内の知恵と、宗教信徒とその宗教指導者が世界のコミュニティに変化をもたらす役割を認めること。

## 後注

- i. 2022 IPCC Report (2022年IPCC報告書) : <https://unfccc.int/news/the-evidence-is-clear-the-time-for-action-is-now-we-can-halve-emissions-by-2030>
- ii. <https://theconversation.com/how-treaties-protecting-fossil-fuel-investors-could-jeopardize-global-efforts-to-save-the-climate-and-cost-countries-billions-182135>



## B. 持続可能な開発

### 1 はじめに

- 1.1 今日、何百万人もの人々が、極端な貧困や不平等のために生活と繁栄が損なわれている地域や国に住んでいます。新型コロナウイルスの世界的大流行は不平等を悪化させ、過去数十年間の開発収益を損ねています。パンデミックの危機の間に極度の貧困のレベルが上昇し、現在では7億人を超える人々が1日あたり1.90ドル未満で生活していると推定されています。
- 1.2 アングリカン・キリスト教徒や他のキリスト教徒の多くがその数字に含まれます。人々は、日々の生活上の慢性的な問題だけでなく突然の災害にも直面しています。それらの多くは紛争や経済危機に関連し、気候変動による干ばつや海面上昇、洪水、火災から来るものです。これらの災害は命を奪い、家を壊し、生活を破壊し、食糧不安を引き起こし、教育を中断させ、健康を損ない、移住を強制し、人身取引の危険を高め、性暴力を増加させ、コミュニティの混乱を招き、そして家族をバラバラにします。とりわけ女性や若者、先住民に大きな影響を与えます。このような危機の影響は、経済的にも、それらがもたらす人へのトラウマの点でも、高くつきます。パンデミックはそのような状況をさらに悪化させ、貧困が増加し、国内だけでなく国と国との間にますます不平等が生じています。
- 1.3 このような状況は、神を愛し、隣人を愛し、被造物を愛することができなかったという点で、人間の罪の結果とも言えます。しかしそれでも2022年Lambeth Conferenceで研究したペトロの手紙一に記されているとおり、私たちは、「清い心で深く愛し合い」（ペトロの手紙一1:22）、もてなし合い、そして管理者として互いに仕えるように召されています（ペトロの手紙一4:9～10）。これらのことは、地域規模および世界規模で互いに心にかけてあう上で不可欠です。
- 1.4 イエスは、正義を求め、愛ある奉仕をするために、私たち皆を次のとおり召しています：「貧しい人に福音を告げ知らせるために／主が私に油を注がれたからである。／主が私を遣わされたのは／捕らわれている人に解放を／目の見えない人に視力の回復を告げ／打ちひしがれている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」（ルカによる福音書4: 18～19）

### 2 宣言

- 2.1 キリスト教徒として、私たちの希望は、天および地を造られた主の内にあります。私たちの希望とは、私たちが神の永遠の話に参加できるよう召されていることであり、世界がそうなりえるように、そうであるべきであるように、そしていつか神の国が来るときにそうなるように私たちを導いてくださることであります。
- 2.2 国連の持続可能な開発目標（SDGs）は、人と地球の相互繁栄、平和と繁栄、そして一人の人間としてのパートナーシップのための重要なビジョンです。人は、貧しく、社会から取り残され、ジェンダー不公正を含む不公正に直面している人々に正義、憐れみ、そして連帯を示すよう求められています。SDGsは、より公正な世界、つまり、誰もが元気で、誰も取り残されることのない世界に向けた取り組みに誰もが参加できるビジョンと枠組みを示しています。SDGsの原則は、アングリカンの宣教の5つの指標に反映されています。

### 3 確言

- 3.1 このような流れの中、私たちは行動の季節にあります。すなわち、私たちの世界を再創造し、これらの不正や脅威に対処するための重要で緊急の機会です。2030年は、SDGsの重要な目標期日です。アングリカン・キリスト教徒として、教会の務め、すなわちキリストの務めは、「宣教の5つの指標」に表されています。これらは、イエスの務めが、貧しい人に福音を告げ知らせること、打ちひしがれている人を自由にする、皆の命を満ち溢れさせること、そしてすべての被造物の回復であることを思い起こさせるものです（ルカによる福音書4:18、ヨハネによる福音書10:10、マルコによる福音書16:15）。イエスの足跡をたどるのは、私たちの召命であり、私たちの望みです。SDGsは、私たちの理解と対応、私たちの行動への召命、そして人と地球のためにより広い世界規模の動きに参加することを喚起するツールです。私たちは神の世界のための神の教会となるよう召されています。

#### 4 具体的要請(呼びかけ)

- 4.1 私たちは、主教としての私たち自身に、そして私たちの管区・主教区・教区の人々に対し次のことを呼びかけます。
- 4.1.1 私たちが神の世界のための神の教会として務めを果たすことができるよう、宣教の5つの指標をさらに十分に追求すること。
- 4.1.2 持続可能な開発目標のうちどれが私たちのミッションに最も関係があるか特定し、それを私たちの主教区のミッション計画に組み込んで行動すること。
- 4.1.3 私たちの教会と、地域や世界の隣人たちとの協力を促して変革を進め、私たちの恵みと資産を活用して、宣教の5つの指標に反映された持続可能な開発目標のビジョンに沿って、回復力があり、持続可能で公正なコミュニティを作り上げること。
- 4.1.4 繁栄する地球で普遍的な人間の尊厳と繁栄が達成されるよう(ヨハネによる福音書10:10)、コミュニケーション全体で互いに協力できるよう支援・奨励すること。
- 4.2 私たちはコミュニオンのインストルメンツに次のことを呼びかけます。
- 4.2.1 宣教の5つの指標を、アングリカンのアイデンティティとその信徒であることの総体として掲げ、神の世界のための神の教会としての全体的使命とすること。
- 4.2.2 私たちの世界を再創造し、愛ある奉仕によって人間のニーズにこたえ、社会の不当な構造に挑み、そして被造物を守るという宣教の5つの指標とそのビジョンを促進し、それによって持続可能な開発目標の達成にコミュニオンが大きな貢献ができるよう奨励し、そのための体制を整えること。[グローバルな概念である「キャンペーン」から、主教区の行動により根ざした言葉に変更]
- 4.2.3 人の互いの幸福と地球のために、他の信仰コミュニティやすべての人々と協力すること。特に、女性や若者の参加を支援し、その声を大きくすること。
- 4.2.4 国内および国と国との間の不公平や不平等、不安定をもたらす世界の経済・政治制度を永らえさせる不当な構造に異議を唱えること。
- 4.3 私たちは世界の指導者たちに次のことを呼びかけます。
- 4.3.1 世界のすべての国が、「誰も取り残さない」というビジョンを含め2030年の持続可能な開発目標を達成できるように資金提供し、行動を起こすこと。
- 4.3.2 宗教関係者と信仰に基づく(faith-based)組織の戦略的重要性を認識し、持続可能な開発や災害への備え、回復力、そして対応のための重要なパートナーとしてそれらを参加させること。

#### 5 実施

主教は、これらの呼びかけを主教区レベルで、そして主教区の会議や集会においてフォローアップし、それらを生きた文書にし、それをミッションの計画と実行の優先事項として組み込むよう推奨されます。

これらの呼びかけは、主教がリーダーシップをとり、コミュニオン・インストルメンツとともに布教組織や開発機関から支援を受けて自らの管区や主教区で実施するよう呼びかけられます。ACCおよびその常任委員会は個々の呼びかけをモニタリングし、その進捗状況を2030年までの期間、ACC19などで報告します。国連アングリカン・コミュニオン事務局やアングリカン連合、ジェンダー公正部などのACOの各部門、関連のアングリカンネットワーク、委員会およびエージェントなどのコミュニオンレベルの機関はすべて協力して加盟教会間の調整を行い、各教会を支援するとともに、世界の関連機関と協力してこの「環境と持続可能な開発目標のための呼びかけ」に定める行動に向けて取り組みます。





# ランベスの呼びかけ アングリカンのアイデンティティ

「・・・あなたがたは、選ばれた民、王の祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある顕現を、あなたがたが広く伝えるためです。」ペトロの手紙一2:9

## 1 宣言

- 1.1 教会は、復活したキリストの共同体です。キリストの教会は一つであり、聖なるものであり、普遍的なものであり、使徒的なものであることをキリスト教徒は認めます。<sup>i</sup>教会は受肉した御言葉による神の贖いの使命の実です(ローマの信徒への手紙12:5、ガラテヤの信徒への手紙3:26~28)。教会は、神の使命を見極め、神の使命に携わる中で生きています。

## 2 確言

- 2.1 アングリカンの伝統は、普遍性や改革、国際的な宣教、異文化間の証しなどに献身したという共通の歴史にそのルーツがあります。私たちの団結と、より強い団結への希望は、シカゴーランベス四綱領に表されています。
- i. 旧約聖書と新約聖書は、「救いに必要なすべてのものを含む」ものであり、またこれらは信仰の規則および究極の基準である。
  - ii. 使徒信条は洗礼のシンボルであり、ニカイア信条はキリスト教の信仰の十分な声明である。
  - iii. キリスト自身によって授けられた二つの sacrament - 洗礼と主の晩餐 - は、キリストが授けられた言葉と要素を用いて、確実に執行される。
  - iv. 歴史的な主教職は、神の教会の団結に召された諸国民の多様な必要に応じ、その運営方法を地域に合わせて適合させる。<sup>ii</sup>
- 2.2 聖書を基礎にし、伝統と理性により導かれるアングリカン・キリスト教徒は、豊かで多様な文化や、人々の持つ異なる経験の中で、神への信仰を求めます。カンタベリー大主教管区と同じ宗派に属するアングリカン・コミュニオンは、165カ国以上にまたがる教会と教会管区がお互いに頼り合う、1つの家族として成長してきました。
- 2.3 従って、アングリカン・キリスト教徒は教会の目に見える制度的な形態を支持します。<sup>iii</sup>アングリカン・コミュニオンの各教会管区は自律しつつも、相互に頼り合いながら存続をするよう求められています。4つのコミュニオンのインストルメンツにアングリカンの相互依存性が表されています。<sup>iv</sup>これらインストルメンツは次の通りです。
- i. カンタベリー大主教
  - ii. Lambeth Conference
  - iii. アングリカン諮問評議会
  - iv. Primates' Meeting (首座主教会議)
- アングリカン・コミュニオンの加盟教会は、互いの交わりとコミュニオンのインストルメンツとの交わりとの関係で定義されます。
- 2.4 私たちの共通の洗礼は、主イエス・キリストのもと奉仕するために生きるようすべての神の民を導くものです。私たちは、執事、司祭、主教の三位一体による共通の聖職に就くことを認めます。私たちは、礼拝コミュニティにより形作られ、みことばと聖餐によって養われ、世界におけるキリストの主権の証人として外へ目を向けます。<sup>v</sup>

2.5 私たちの証しは、地域社会に根ざし、世界的な広がりをもっています。宣教への呼びかけは、アングリカニズムの「宣教の5つの指標」に表されています。<sup>vi</sup> 教会の宣教とは、キリストの宣教でもあるのです：

- i. 神の国の福音を宣べ伝えること
- ii. 新しい信者に教え、洗礼を授け、育成すること
- iii. 愛ある奉仕によって人間のニーズにこたえること
- iv. 不公正な社会構造を変革し、あらゆる暴力に立ち向かい、平和と和解を追求すること
- v. 被造物の完全性を守り、地球の生命を維持し、再生するために努力すること

### 3 具体的要請(呼びかけ)

Lambeth Conference 2022に集った主教たちは、コミュニオンに対して次のように呼びかけます：

#### 3.1 コミュニオンのビジョンと実践を再創造する

共有された伝統が世界のビジョンを狭め、制度の賜物が制度尊重主義を養い、権威の賜物が権力の濫用によって汚され得ることがあり、そして意見の相違の中の識別に見出される恵みは、セクショナリズムによって浪費され得ることがあることを認識します。私たちはコミュニオンの新鮮なビジョンを望んでいます。私たちはカンタベリー大主教とアングリカン諮問評議会に対し、コミュニオン(コイノニア)が管区や教会の伝統を超えて理解され具体化される様々な方法を研究するための独立研究グループを設立するよう求めます。<sup>vii</sup> この異文化間研究グループは、コミュニオンの神学とコミュニオンであることの方法を再創造し、刺激し、そして新たにします。この研究の初期設計(方法、範囲、成果などの明確化)は、2024年のACC常任委員会に提出される予定です。この研究グループは2025年に最初のリソースセットを公開する予定です。

#### 3.2 グローバル・サウスにおける国際的・異文化交流の可能性を探る

権威主義、先住民の脆弱性と行動主義、宗教間の協力と紛争、大量移住、多元主義、気候危機、科学技術の大きな変化などが顕著な時代になっています。そのような困難と機会の中、そして私たちのコミュニオンを形作る独特で多様な文化の中で、私たちはこの世に復活したキリストの存在を祝い、福音に見られる希望を証言します。先住民の指導者、女性、若者、そして信徒の声を優先して、私たちは幅広いアングリカンの家族に対し、視覚、文字および公演芸術に表現された私たちの多くの文化における福音の豊かな表現に喜びの証のうちに集まるよう呼びかけます。<sup>viii</sup> このような文化的・異文化間的賛美は、聖霊を見分け、そして教会がキリスト教の使命のビジョンと実践を新たにするための新たなアプローチを提供します。

私たちはアングリカン諮問評議会の常任委員会に対し、この国際アングリカンフェスティバルまたは会議の実現可能性の調査を行うための調査グループ立ち上げを要請します。<sup>ix</sup> 実現可能性調査のための枠組みを確立する最初の報告書は、2025年のACC常任委員会でセクレタリー・ジェネラルによって提示される必要があります。最終的な実現可能性調査は、2026年のACC-19で調査グループから提出されることとなります。適切であれば、セクレタリー・ジェネラルはカンタベリー大主教と協議の上、国際アングリカン会議を開催し、企画グループを立ち上げます。この国際会議は、次回のLambeth Conferenceより前に開催することとなります。



### 3.3 コミュニオンのインストルメンツの見直し

私たちは、現在のコミュニオンのインストルメンツを見直すことを求めます。私たちはカンタベリー大主教に、すべての聖職職制（信徒を含む）がいかにインストルメンツに関係するか、および/またはインストルメンツの中で代表するかについて特別な注意を払いながら、コミュニオンのインストルメンツに関する独立した検討グループを立ち上げることを求めます。それぞれのインストルメンツはどれくらい目的に適っているか？今日と未来のコミュニオンに奉仕するために、いくつかの（あるいはすべての）インストルメンツがどの程度再構成される可能性があるか？先住民族の指導者、信徒、女性、若者など、あまりにも頻繁に疎外されているこれらの声を中心に置くために、さらにコミュニオンのインストルメントを設けるべきか？\*この見直しは、2026年に開催されるACC-19の会合で提示されなければなりません。

### 3.4 宣教の5つの指標へのアングリカニズムの取り組みを活性化する

私たちはすべての主教に対し、それぞれの主教区において宣教の5つの指標を再確認し、それへの取り組みを新たにすることについて指導的役割を果たすよう呼びかけます。<sup>xi</sup> アングリカン諮問評議会の常任委員会は、適切なコミュニオンのネットワークや部門と協議の上、アングリカン宣教者の国際的なグループを招集し、このミッションの再確認と再取り組みをコミュニオン全体で具体化する多様な方法を研究することをその任務とすべきです。この研究は2026年末までに、コミュニオンにおけるミッションの新たなビジョンとして公表される予定です。<sup>xii</sup>

## 後注

- i. The Nicene Creed (ニカイア信条) ; The Inter-Anglican Standing Commission on Unity, Faith & Order (IASCUFO), *Towards a Symphony of Instruments (一致、信仰および職制に関するインター・アングリカン常任委員会 (IASCUFO)、インストルメンツの調和に向けて) : A Historical and Theological Consideration of the Instruments of the Anglican Communion (アングリカン・コミュニオンのインストルメンツに関する歴史のおよび神学的検討)* (2018)、1-2。
- ii. Lambeth Conference 1888、決議11。また、Book of Common Prayer (祈祷書) (1662年) 中の祈祷文も参照のこと。
- iii. *Book of Common Prayer (祈祷書)* 第XIX項～第XXI項 (1662)。また、Encyclical Letter (回勅) 1.5 (Lambeth Conference 1878) に定める“Principles of Church Order (教会職制の原則)”：  
<https://www.anglicancommunion.org/resources/document-library/lambeth-conference/1878/recommendation-1-union-among-the-churches-of-the-anglican-communion-encyclical-letter-15?language=english&year=1878> (2022年7月1日アクセス) も参照のこと。
- iv. *Towards a Symphony of Instruments (インストルメンツの調和に向けて)* (2018)。
- v. The International Anglican Liturgical Consultation (IALC) (インターナショナル・アングリカン典礼協議会), *Report on Liturgical Formation of All the Baptised (洗礼を受けたすべての人の典礼形成に関する報告書)* (2021): [https://www.anglicancommunion.org/media/493609/The-Liturgical-Formation-of-All-the-Baptised\\_ACC18\\_IALC\\_2301.pdf](https://www.anglicancommunion.org/media/493609/The-Liturgical-Formation-of-All-the-Baptised_ACC18_IALC_2301.pdf) を参照のこと。
- vi. <https://www.anglicancommunion.org/mission/marks-of-mission.aspx> を参照のこと。宣教の指標は、ナイジェリア・バダグリで開催されたアングリカン諮問評議会 (ACC-6) (1984) で初めて議論された。1988 Lambeth Conferenceにおいてアングリカンの宣教についてのこの新たな定義が確立するとともに(「The Nature and Meaning of Mission (宣教の姿と意味)」)、1990年のACC-8で、生態系の危機に対応する5番目の指標が追加された。Lambeth Conference 1998において宣教の5つの指標が承認された。Cathy Ross、「Mission (宣教)」、Mark D. Chapman, Sathianathan Clarke, Martyn Percyエディション、*The Oxford Handbook of Anglican Studies (オックスフォード・アングリカン研究ハンドブック (オックスフォード、2015))*、504-515; Robert S. Heaney, John Kafwanka K, 「Discipleship in the Mission of God (神の使命における信徒育成)」、Robert S. Heaney, John Kafwanka K, Hilda Kabia, *God's Church for God's World (神の世界のための神の教会)* (ニューヨーク: Church Publishing, 2020)、1-19



- を参照のこと。
- vii. コリントの信徒への手紙—10:16～17。
  - viii. **Ka Hao – Praise Is What I Do – YouTube** これは、ある管区の若者たちが、先住民とキリスト教のアイデンティティを、先住性と創造的プロセスとの関連で、福音を真剣に受け止める統合的なアプローチを通じて探求してきた例です。この *Waiata* (歌) は、精神的・神学的・芸術的努力の成果です。さらに、パフォーマンス自体は神学と精神的識別の行為です。このような芸術的・神学的表現は、その一部は、国際的・異文化的な集まりの活動や証しとして私たちが見ているものです。
  - ix. このような国際会議は、1908年にイギリスのロンドンで、1954年にアメリカのミネアポリスで、そして1963年にカナダ・トロントで開催されたアングリカン会議から着想が得られるかもしれません。カナダ・トロントで最後に開催されたアングリカン会議 (1963年) については、[https://www.episcopalarchives.org/e-archives/the\\_witness/pdf/1963\\_Watermarked/Witness\\_19630905.pdf](https://www.episcopalarchives.org/e-archives/the_witness/pdf/1963_Watermarked/Witness_19630905.pdf) を参照のこと。
  - x. カンタベリー大主教は2022年5月2日、先住民の権利に関するカナダ先住民会議を約束した。カンタベリー大主教、”Apology to the Indigenous peoples of Canada (カナダ先住民への謝罪)” (プレスリリース、2022年5月2日) <https://www.archbishopofcanterbury.org/speaking-writing/speeches/read-archbishop-justins-apology-indigenous-peoples-canada> (2022年6月23日アクセス) を参照のこと。
  - xi. 宣教と伝道についてのランベスの呼びかけも参照のこと。
  - xii. 国際・異文化間会議が行われると判断された場合、この呼びかけで想定した調査研究は、その会議を形成する上で重要な資料となります。

# ランベスの呼びかけ セーフ・チャーチ

## 1 はじめに

Lambeth Conferenceのテーマは「神の世界のための神の教会」であり、主教はペトロの手紙一を研究しました。使徒ペトロは、小アジアに散らばるキリスト教徒たちに、イエス・キリストに従うために御霊によって聖別された、そして神に選ばれた民としての、キリストにおける自分たちのアイデンティティを思い出させる手紙を書きました（ペトロの手紙一、1:1～2）。旧約聖書も新約聖書も、神の恵みに対する適切な行動として、聖なるものとなるよう呼びかけています（ペトロの手紙一、1:15～16）。それゆえ、キリスト教徒は神のしもべとして生き、すべての人を敬い、信者の家族を愛さなければなりません（ペトロの手紙一、2:16～17）。キリスト教指導者は、あなた方のうちの神の民を守るように召されています（ペトロの手紙一、5:1～2）。

## 2 宣言

2.1 この呼びかけを行うにあたり、私たちは次のことを念頭に置き、また指針とします：

- 教会の中で虐待を受けた人々の声
- 人種、性別、性的指向、民族性、宗教的信念、身体的、認知的または感覚的障害抱えた生活、または経済的脆弱性など、人やコミュニティが暴力、虐待、疎外に対して脆弱になり得る状況の範囲
- 世界保健機関が引用する調査からの推定によると
  - 世界では、過去1年間に身体的、性的、あるいは精神的な暴力（虐待）やネグレクトを経験した2～17歳の子どもは10億人にのぼります。子どもに対する暴力は、子ども自身の健康と福祉に生涯にわたって影響を及ぼします。<sup>i</sup>
  - 世界の女性の3人に1人は生涯において、身体的・性的に親密なパートナーからの暴力、あるいはパートナー以外の人からの暴力を受けています。この暴力は、女性、その家族、そして社会に深刻な短期的および長期的な健康被害をもたらすだけでなく、社会的および経済的なコストをもたらします。<sup>ii</sup>
- 持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDG）の目標：
  - 人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性および女子に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する（ターゲット5.2）。
  - 「子どもに対する虐待、搾取、人身売買、あらゆる形の暴力や拷問をなくす」（ターゲット16.2）。<sup>iii</sup>

2.2 私たちは、政府の調査や報告されたケースやメディアで取り上げられた、アングリカン・コミュニオン教会を含む宗教施設における安全管理やセーフ・チャーチの問題を十分に認識した上で、この呼びかけを行っています。宗教施設で働いている人々が、聖職者と信徒の両方ともが信頼を裏切り、司牧の責任を負う子どもや大人を虐待してきました。一部の宗教指導者は、この虐待とその結果を否定したり、軽視したりしています。さらに宗教施設は、適切に対応しなかったことによって、虐待の影響を当初よりもさらに大きくしてきました。彼らは、情報開示を真剣に行わず、虐待を直ちに関係当局に報告せず、加害者に責任を負わせず、虐待された人々に継続的なパストラルケアを提供しませんでした。その結果、多くの宗教団体の評判と社会的信頼は損なわれました。

### 2.3 私たちは以下を宣言します：

- 人間の家族全員に対する神の愛と、イエスの宣教において、子どもたちや弱者、疎外された人々に優先権を与えることについての聖書のあかし。
- 社会と教会の中で女性と子どもを不当に苦しめる、様々な形の権力の乱用に関する、2008年Lambeth Conferenceにおける考察の継続的妥当性を認めます。キリストの体の中で女性や子どもに加えられる暴力は、キリストの体に対して行われる暴力と同じです。暴力と虐待は、身体的、経済的、精神的、心理的、知的、文化的、性的、霊的な虐待を含む多くの形態をとります。
- 私たちは、2012年アングリカン諮問評議会 (ACC-15) で採択された「アングリカン・コミュニオン教会内の人々の安全に関する憲章」を実行します。私たちは、虐待があった場合の支援、虐待への効果的な対応の実施、聖職の実践に関する基準の採択と推進、聖職への適性評価、安全な文化の推進を実行します。
- 私たちは、2016年アングリカン諮問評議会 (ACC-16) で歓迎されたアングリカン・コミュニオン教会間における聖職適性情報の開示に関する議定書を実施します。私たちは、教会管区間および教会管区内で移動をする教会関係者に関する情報の共有・評価システムを導入することでその議定書を実施します。
- 私たちは、2019年にアングリカン諮問評議会 (ACC-17) で採択されたアングリカン・コミュニオン教会管区内におけるすべての人（特に子ども、若者や弱い立場の大人）の安全を強化するためのガイドラインに従います。私たちは、教会において、虐待を防止し、虐待を受けた人に適切な司牧的支援を提供するためのシステムを整備し、このガイドラインに従います。
- 私たちは、2019年アングリカン諮問評議会 (ACC-17) において継続が要請されたアングリカン・コミュニオン・セーフ・チャーチ委員会と協力していきます。私たちは、アングリカン・コミュニオン教会におけるすべての人々の安全を高めるために、委員会が支援を提供し、進捗状況を報告するにあたり委員会と協力していきます。

## 3 確言

3.1 私たちは、教会で働く一部の人々、聖職者と信徒の両方が、保護すべき人々を虐待することによって、罪深い、さらには犯罪的な行為に及んでいることを深い恥辱をもって認めます。私たちは、虐待を受け、傷つけられ、その影響を受けながら生き続けている人々に心から謝罪します。私たちは、教会が被害を防げなかったこと、虐待を受けた人々の声に耳を傾けなかったこと、彼らを助けることができなかったことを深く反省しています。私たちは、私たちの悔い改めが、私たちの教会コミュニティや組織の安全性を高めるための意図的行動によって示されなければならないことを認識しています。

3.2 私たちは次のことを確言します：

- すべての人々が大切にされる、安全な地域社会を作ることは、教会の使命と神の民の弟子育成の主要な部分です。この確信は、私たちの神学の中核をなすものでなければならず、それゆえ、神の世界のための神の教会である私たちのアイデンティティや思考、言葉、行動を特徴づけるものでなければなりません。
- 教会関係者が誠実に行動し、虐待の被害者がケアを受け、正当な結果を得ることができ、虐待を行った教会関係者が責任を負い、教会指導者が虐待を隠さない、すべての人にとってより安全な場所であるアングリカン・コミュニオン教会にするために、私たちは行動を起こします。

#### 4 具体的要請(呼びかけ)

私たち、Lambeth Conferenceに集まった主教たちは、次のことを呼びかけます。

##### 4.1 主教としての私たち自身、私たちが司牧するすべての人々を保護する責任を果たすために、次のことを行います。

- 私たち自身が訓練、虐待を受けた人々の経験に耳を傾けること、そして仲間の主教と継続的に分かち合うことを通じて、必要な知識、理解、思いやり、そして識別力を身につけるようにすること。
- 「アングリカン・コミュニオン教会内の人々の安全に関する憲章」を採択すること。
- 聖職適性情報開示のための規約を実行すること。
- アングリカン・コミュニオンの諸教区の中ですべての人、特に子どもや若者、脆弱な成人の安全を強化するためのガイドラインに従うこと。
- すべての主教区が、状況や地域の資源に適したセーフ・チャーチ構造/システムを緊急の問題として構築するようにすること。
- 児童虐待に関連する当局および行政に報告するために、自国のすべての法的要件を満たすこと。
- 子供、若者、脆弱な成人の保護を強化するために、政府機関内の法律と慣行の変更を提唱すること。

その際、私たちは、私たちの進歩はコミュニオンのさまざまな部分で異なり、私たちの管区や主教区のいくつかは、この活動に固有の課題をもたらす戦争や自然災害などの状況に直面していることを認識します。

##### 4.2 コミュニオンのインストルメンツは、アングリカン・コミュニオンの各教会管区に暮らすすべての人々の安全を、その重点事項や資源配分、行動における優先事項とすること。

##### 4.3 私たちの教会管区と教区の人々は、私たちと協力して虐待を防止し、虐待を受けた人に適切な司牧的支援を提供する制度、訓練、および人員を整え、教会共同体と組織のすべての人を保護すること。

##### 4.4 世界の指導者は、SDGsのターゲット5.2および16.2を達成するために必要なあらゆる手段を講じること(上記2.1のとおり)。

私たちは、私たちの教区すべての人々を保護する責任を果たすことの進捗状況を、代表者を通じて定期的にコミュニオンのインストルメンツに報告することを約束します。

## 後注

- i. 世界保健機関、概況報告書、子どもに対する暴力、2022年11月29日  
[Violence against children \(who.int\)](https://www.who.int/publications/m/item/violence-against-children).
- ii. 世界保健機関、概況報告書、女性に対する暴力、2021年3月9日、  
[Violence against women \(who.int\)](https://www.who.int/publications/m/item/violence-against-women)
- iii. 持続可能な開発のための2030アジェンダは2015年9月の国連サミットで採択され、あらゆる貧困をなくすことを目的としている。17の持続可能な開発目標と169のターゲットを定めている。





# ランベスの呼びかけ 科学と信仰

## 1 はじめに

- 1.1 気候変動や生物多様性の喪失、貧困、病気、戦争、飢餓、新しい技術の不注意な使用など、今後10年間で世界はさまざまな危険に直面しています。以下の呼びかけで、Lambeth Conferenceに集まった主教は、アングリカン・コミュニオンすべての教会に対し、科学の内に信仰生活のために神から与えられたリソースを認め、信仰の知恵を科学の成果に生かすよう呼びかけています。私たちは私たちの教会に対し、このことを優先し、教会の指導者や科学者が協調してこのような勇気ある、確かなリーダーシップを発揮できるように支援することを呼びかけます。
- 1.2 主教がこの呼びかけをするのは、会議の間研究した聖書であるペトロの手紙一が神の民に対し、「あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を用いて互いに仕えなさい」と呼びかけているからです。(ペトロの手紙一4:10) 私たちの教会には多くのすぐれた科学者が世界中におり、それらアングリカン・キリスト教徒は科学の恵みを教会と世界に届けています。さらに、多くの科学者は、信仰の知恵、特に神のさまざまな恵みから見識を得るためのキリスト教の知恵に期待を寄せています。また、ペトロの手紙一はこれらの恵みを分かち合うだけでなく、「神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい」と呼びかけています(ペトロの手紙一4:11)。言い換えれば、アングリカンである科学者と教会の指導者は、自分自身ではなく、自分が住み、動き、そして自分が生きているところの人に頼ることができることを認める必要があります。

## 2 宣言

- 2.1 過去のLambeth Conferenceにおいて、教会は科学技術に関心を持つべきことが何度も呼びかけられ、さらに最近になってECLASの取り組みがあつたにもかかわらず<sup>ii</sup>、科学と信仰の間の認識の格差はさらに広がり、コミュニオンの各所で様々に言われています。科学者たちは、それぞれの職業上弟子であることに肯定的ではなく、教会の指導者たちは、信仰の知恵を科学的な問いに持ち込むことに不安を感じてきました。
- 2.2 カンタベリー大主教は最近次のように語っています。「科学と信仰の関係は、持続的で大きな変化への非常に現実的で強力なルートを私たちにもたらします。私たちの(アングリカン・コミュニオンとしての)世界的な広がり、地域社会に対する取り組み、そして私たちの希望は、科学の知識と専門性を合わせれば、強力な協力関係を作り出すものです」<sup>iii</sup>
- 2.3 さらに、ローマ教皇フランシスコと世界の宗教指導者40人は共同で次のような強力な呼びかけを2021年10月に行いました。「信仰と科学は、人類文明の重要な柱であり、共通の原則と相補性を持っています…。私たちは、「直面する課題に対し」科学の知識と宗教の知恵を使って取り組む必要があります。もっと知り、もっと気にかけるために」<sup>iv</sup>

## 3 確言

- 3.1 主教として私たちは、次の重大な十年にわたり、科学と信仰との間の亀裂感をアングリカン・コミュニオンのあらゆる所からなくし、もってこの世代において神の世界のための神の教会の実現を目指します。<sup>v</sup>
- 3.2 このような信仰と科学の融合は、科学者と教会指導者との間、そしてコミュニオンの各教会との間のパートナーシップを通じてのみ実現され、科学が多くの国で果たしてきた複雑な歴史を知り、アングリカンの神学的方法(聖書、理性、そして伝統から)を利用してキリスト教信仰と科学の関係をより明確にする必要があります。



したがって、

3.3 Lambeth Conferenceのために集まった私たち主教は、科学との神学対話を歓迎して行い、そのコミュニオン各地域での理解のされ方を確立し、科学の内に信仰生活のために神から与えられたリソースを認め、キリスト教信仰の知恵をその成果、とりわけ世界全体でのその利用と不均等な影響への倫理に生かすよう取り組みます。

3.4 私たちは、私たちのエキュメニカル・異教徒パートナーおよび政府(可能ならば)とともに活動する私たちの教会に対し、このことを優先し、教会の指導者や科学者が協調して勇気ある、確かなリーダーシップを発揮できるよう支援することを呼びかけ、そのためにアングリカン・コミュニオンや他の教会の委員会やネットワーク、機関を通じてすでに行われている協力関係を利用します。

#### 4 具体的要請(呼びかけ)

4.1 私たちは、ミッションのために参加するすべてのアングリカン・キリスト教徒に対し、科学との神学対話を行い、そのコミュニオン各地域での理解のされ方を確立し、科学の内に信仰生活のために神から与えられたリソースを認め、アングリカンの神学的方法(聖書、理性および伝統から)の知恵をその成果、とりわけ世界全体でのその利用と不均等な影響への倫理に生かすよう取り組みます。宣教の5つの指標を枠組みとして使用すると、次のような方法で実現できます。

- 御国の福音を告げ知らせること：科学の内に信仰生活のために神から与えられたリソースを認め、そしてそれによって告げ知らせることと信仰に対する障壁としての科学を取り除きます。神の賛美と栄光に祈りを捧げる際の靈感として科学を利用します。
- 新たな信者に教え、洗礼し、育てること：キリスト教の信仰のため科学の内に基礎を見つけ出し、科学のバックグラウンドや職業を持つ新しい信者の尊厳と価値を確認します。
- 愛ある奉仕によって人間のニーズにこたえること：体や心の医療から水や食品の安全保障に至る問題について科学のリソースを活用します。
- 社会の不公正な構造を変え、あらゆる暴力に挑戦し、平和と和解を追求すること：科学がいかにか不公平と対立に寄与し得るかを知り、信頼できる科学的視点からそれらの問題について発言します。AI、遺伝学、核技術などの新しい技術の導入にあたって信仰の倫理と知恵を提供します。
- 被造物の完全性を守り、地球の生命を維持し新たにすること：物質世界について気にかけることにキリスト教徒としての神学的動機付けを貢献させて、貪欲を点検し、神の創造物に責任を持って関与するという倫理的命令に対応します。

4.2 私たちは、アングリカン・コミュニオン科学委員会の設立を大いに歓迎し、この分野での活動を主導・強化し、呼びかけから生じる活動の効果的で容易なコミュニケーションを提供します。

4.3 私たちは私たちの学校、神学校・神学大学・研修課程において、信仰生活のために神から与えられたリソースとしての科学との神学対話を歓迎して実施し、いかにして信仰の知恵を科学の成果に提供できるかをモデル化し、それによってすべての神の民、信徒および聖職者が信徒および聖職者として仕える人たちのために同じことができるよう呼びかけます。私たちは、新しいアングリカン・コミュニオン神学教育委員会がこれを主導するよう求めます。

- 4.4 私たちはコミュニオンの全教会に対し、科学担当主任主教を指名し(まだ指名されていない場合)、この課題を前に進めるために、それぞれの管区において科学者と教会指導者からなる委員会の可能性について検討するとともに、アングリカン・コミュニオン科学プロジェクトとの連携とプロジェクトからの支援が実現するよう呼びかけます。<sup>vi</sup> 私たちは、特に若い科学者がこれらの委員会の委員に招待されることを求めます。
- 4.5 私たちはすべてのアングリカンの弟子に対し、弟子たちの健康と教会の務めには例外なく科学が不可欠なことについて理解を深め、それによって弟子たちが世界市民としてより積極的な役割を果たし、神の世界のための神の教会になることができるよう呼びかけます。

## 5 実施

この呼びかけへの対応は、Lambeth Conference 2022で発足するアングリカン・コミュニオン科学委員会が主導し、世界中のコミュニオンの科学者・神学者チームがこれを支援します。活動は、オックスフォード大学、ケープタウン大学、ケニア・リムルにあるセントポール大学など、2、3の大学を拠点とするアングリカン・コミュニオン科学プロジェクトにより進められます。

委員会は目標と進捗状況について定期的に報告します。

委員会はまた、これからの重要な10年間の進捗について次回Lambeth Conferenceで報告します。

## 後注

- i. 例えば、1978 Lambeth Conferenceの決議1および2とその添付解説書65～67ページ。
- ii. 「教会指導者を科学時代に対応させるプロジェクト (Equipping Church Leaders in an Age of Science (ECLAS))」は2013年に設立され、主に英国を対象としたものであるが、最近では北米にも類似の目的を持ったものがある。 <https://www.eclasproject.org>
- iii. The Archbishop of Canterbury, Address to Faith Leaders, February 2021 (カンタベリー大主教、宗教指導者に宛てて、2021年2月) [Archbishop of Canterbury addresses international faith leaders ahead of COP26 climate change conference | The Archbishop of Canterbury \(カンタベリー大主教はCOP26気候変動会議に先立ち、世界の信仰指導者に向けて演説 | カンタベリー大主教\)](#)
- iv. Holy See: Faith and Science, An Appeal for COP 26 (ローマ教皇庁：信仰と科学、COP 26に向けた提言) (40人の宗教指導者と一流科学者による共同宣言) : [Holy See: Faith and Science: An Appeal for COP26 - GOV.UK \(ローマ教皇庁：信仰と科学：COP26に向けた提言 - 英国政府\) \(www.gov.uk\)](#)
- v. 科学は植民地の歴史において罪がないというわけではなく、このことはコミュニオンの一部で今も意識されている。この亀裂は単に「信仰」と「科学」との間にあるというだけでなく、もっと複雑である。
- vi. このプロジェクトへの資金提供の申し込みは、大手のグローバル・トラストを通じて行われている。



## ランベスの呼びかけ 人間の尊厳

私たちの主イエス・キリストの父なる神が、ほめたたえられますように。神は、豊かな憐れみにより、死者の中からのイエス・キリストの復活を通して、私たちを新たに生まれさせ、生ける希望を与えてくださいました...ペトロの手紙一1:3

### 1 宣言

- 1.1 神の創造により(創世記1:31)、人が神のかたちに造られ、神の心遣いと愛により祝福されました(創世記1.26~28)。このことによりすべての人間には、取り去ることができない尊厳が与えられました。<sup>i</sup>「私たちが他者と向き合うとき、私たちは神の無限の愛と栄光が映っているのを見ます。」<sup>ii</sup>
- 1.2 神の恵みと神のまことの愛はすべての人間のためにあることを私たちが知るようになることはキリストの務めです(ヨハネによる福音書3:16、コロサイの信徒への手紙1:15~20、ローマの信徒への手紙5:18~19、コリントの信徒への手紙一15:22、コリントの信徒への手紙二5:14~17、ペトロの手紙一2:9)。<sup>iii</sup>人間は、キリストの復活を通して新たに生まれさせられ、生ける希望を与えられました(ペトロの手紙一1:3、ペトロの手紙二1:14)。神のかたちをする人間は、神を愛し、互いに愛し合うように召されています(ヨハネの手紙一4:11)。<sup>iv</sup>
- 1.3 神の創造物のすばらしい多様性は、人間の多様性にも反映されています。すべての人間は「計り知れない価値と尊厳の唯一無二で深い秘義です」。<sup>v</sup>人間とあらゆる被造物のこのような多様性は素晴らしくて、美しいものです。ペンテコストと、そしてヨハネの黙示録7:9には、聖霊の団結力の内に多様性が神の奉仕と互いの善のために使われるとき、それがいかに神からの恵み深い賜物であるかが示されています。<sup>vi</sup>
- 1.4 キリストだけが神の完全なかたちです(ヨハネによる福音書10:30、コロサイの信徒への手紙1:15~16)。人間はすべて神の愛に背を向け、神のかたちを損ねています。<sup>vii</sup>私たちは、私たちの罪と、十字架で罪に対する神の勝利を認めます(ペトロの手紙一2:24、3:18、ローマの信徒への手紙5:8)。人間それぞれの尊厳を尊重し、それを維持するには、罪を認め、悔い改め、そして許すことが必要です。キリストの内にこそ、聖霊の力を通して人間の潜在性のすべてを見ることができます。<sup>viii</sup>それは新たに生まれることの賜物であり、キリストの体である教会が一つであるという新しいアイデンティティです。キリストによって贖われた人として、教会は神のかたちを備え、大地の上でキリストの体となるよう召されています(ペトロの手紙一3:9~10、ガラテヤの信徒への手紙3.28)。
- 1.5 ですからキリスト教会はすべて、命は尊いものであり、すべての人を敬い、充実した人生を全うするに値することを宣言しています。<sup>ix</sup>このような尊い基準からは、本当の意味での異議というものはありえません。

### 2 確言

私たちは神の協力者であり(コリントの信徒への手紙一3:9)、人間の命の贈り物とすべての人間の尊厳を守るよう召されています。<sup>x</sup>イエスは、イエスを否定する者や裏切った者の足を洗ったことから、私たちはイエスのしたとおりにするよう召されています(ヨハネによる福音書13:12~17、34~35)。私たちは互いに愛し合うよう召されています。

神の子たちの尊厳を損ねる行為や態度は罪です。植民地主義の遺産や大西洋をまたぐ奴隷貿易、権力の濫用は、私たちのコミュニティに影響を与え続けています。<sup>xi</sup>豊かになる人がいる一方で、貧困になる人もいます。国際的な経済制度は、不公正な搾取構造の上に築かれ、非人間的な状況を生み出しています。土地や健康、教育を享受する上での奥深い不平等、若者の搾取、不公正な労働慣行、少数民族の虐待、移民や難民、人身売買の非人間性、宗教的迫害、信仰の自由に従う人々への圧力、LGBTQの人たちの抑圧、ジェンダーに関連する暴力、戦争、紛争地域の性的暴力などはそのような罪の現れです。すべての人へのもてなしと互いに対する誠は、敬虔なコミュニティの重要なしるしです(ペトロの手紙一4:8~10)。

- 2.1 神は、生命を与える異文化間コミュニティを意図しています。各地の布教努力や各地の文脈に応じた神学は、同じ文化の中や異文化間のイエス・キリストの福音の受容や見解、採用、適応の程度を示すものです。<sup>xii</sup> しかし、国際的なアングリカニズムの多くは植民地主義の下で現れました。私たちは、帝国主義的なアングリカニズムが今なお存在し、その影響が続いていること、そして文化的・人種的至上主義に立つ非人間的な慣行が行われていることを認めます。<sup>xiii</sup> 人間の尊厳に対するキリスト教の取り組みは、各地の実情に応じた神学の豊かな多様性を称えるものでなければならず、残酷で搾取的な植民地主義との間でアングリカニズムが共謀関係にあることに注意を払う必要があります。
- 2.2 不公正な経済制度は世界で最も貧しい地域社会に不当に不利益をもたらしています。<sup>xiv</sup> 貧困との闘いはこれまで進展が見られてきました。<sup>xv</sup> しかし、感染症の世界的流行やインフレの高まり、戦争のために貧困削減の取り組みにかつてないほどの逆風が吹いています。現在の気候危機（地球温度の上昇、海面の上昇、海洋の酸性化など）はさらに不安定な状況と食糧不安をもたらしており、貧困の根絶と持続可能な開発を実現するための取り組みに、現在から将来にわたり困難をもたらします。<sup>xvi</sup> 2020年には、1億2000万人から1億2400万人の人々が新たに極度の貧困に追い込まれました。<sup>xvii</sup> 2022年には、6億5700万人から6億7600万人の人々が極度の貧困状態のもとで生活することになると推定されています。<sup>xviii</sup> このような数字は嘆かわしいものであり、このような貧困の影響は女性や少女に偏っています。<sup>xix</sup> 人間の尊厳への取り組みとは、教会が貧しい人々や社会から取り残された人々と連帯して立つことを意味するものであり、貧しい人々や社会から取り残された人々に対する不公正に対峙することを意味します。
- 2.3 性に基づく偏見は人間の尊厳を脅かすものです。アングリカンの組織形態、特に教会管区の自立性のもとでは、人間の尊厳と人間の性との関係については意見が一致せず、多くの見方があります。しかしそれでも、私たちは尊厳を保護するための対話を深めることはできます。「洗礼を受けた信仰に忠実な人は性的指向にかかわらずすべて、キリストの体の完全なメンバー」であり、歓迎され、気遣われ、丁寧に扱われるべきであることは、アングリカン・コミュニオン全体の精神です（I.10、1998年）。<sup>xx</sup> 慎重な神学的考察と見極めのプロセスの後、多くの管区では今も、同性結婚は認められないという立場をとっています。ランベス決議I.10（1998）には、「同性カップルの合法化や祝福」は推奨しない旨述べられています。<sup>xxi</sup> 別の管区では、慎重な神学的考察と見極めのプロセスを経て、同性カップルや同性結婚を祝福し、歓迎しています。主教の立場として、このような問題について大きな意見の相違があるものの、引き続き耳を傾け、共に取り組んで行きたいと思えます。

### 3 具体的要請（呼びかけ）

聖書には、すべての人間には本質的に尊厳と平等があることが示されています。すべての人は神のかたちに造られているからです。アングリカン・コミュニオンの民族的・文化的な多様性が大きいなかにあっても、すべての人は神のかたちに造られています。すべての人は平等です。実際、神の栄光の贖罪についての最後の完全な黙示において世界の文化の豊かさを支持するという神の意思が示されています（ヨハネの黙示録21:24）。そのため、Lambeth Conference 2022に主教らが集まり、教会に対してすべての創造物、文化および人間の尊厳を守ることを呼びかけています。私たちはコミュニオンに次のことを呼びかけます。

#### 3.1 大主教贖罪行動委員会（ACRA）の設置を支援すること。

この作業には少なくとも4つの焦点があります。第一に、カンタベリー大主教はACRAを、コミュニオンの神学者のグループとして、マジョリティ・ワールドの神学者の議長のもとに開催すること（植民地時代や奴隷制を経験したコミュニティからのリーダーを考えています）。ACRAは、イングランド教会委員会が作成した報告書と法廷会計を調査し、大西洋をはさんで行われた動産としての奴隷貿易制度への教会の歴史上の関係を調べます。<sup>xxii</sup>



第二に、ACRAは、キリストにおける神の贖罪についての聖書の偉大な伝統と、教会の和解の務めへの召命に基づいて、贖罪の行動と償いの総合的な神学理論を確立して公表します(コリントの信徒への手紙二 5:17~19)。<sup>xxiii</sup> 私たちはカンタベリー大主教(教会委員会議長として)に対し、この神学理論により、教会が植民地主義と奴隷に関わったことに対する教会委員会の対応措置が形成されるよう呼びかけます。

第三に、ACRAは、教会委員会の作業と協調して、コミュニオン全体として贖罪行動を監視できるよう、基準、コミュニティおよびプログラムを定めます。

ACRAは四半期ごとの進捗状況報告書をカンタベリー大主教とアングリカン諮問評議会の常任委員会に提出します。

### 3.2 アングリカン・コミュニオン全体の社会的保護対策のための行動

この行動は、可能であれば、政府に社会的保護対策のためのロビー活動を行うことを意味します。また、アングリカン・コミュニオンとして社会保護活動を行うことをも意味します。

まず、関連する情報源や専門家と協議しながら、次回Primates' Meeting(首座主教会議)で、大主教はそれぞれの文脈における社会的保護の意味と影響を共に検討します。<sup>xxiv</sup> 大主教は、社会的保護の枠組みによる生活変化の可能性の証明を主導するとともに、各地の文脈に応じて主教や主教区において同じことができるように支援します。

第二に、貧困は「多面的かつ統合的なアプローチを必要とする多面的な問題」であるため、経済的・政治的・社会的・環境的・制度的・精神的な資源を動員する必要があります。<sup>xxv</sup> 貧困撲滅、特に若者の貧困撲滅に向けて、神聖かつ想像力に富んだアプローチを深めるために、私たちはACCに対しアングリカン・イノベーションファンド(Anglican Innovation Fund、AIF)の設立を呼びかけます。この基金は、社会的保護に重点を置いて貧困と闘う事業やビジネスを立ち上げる若者(18歳から30歳)に資金援助するものです。3.1に関連して、このイニシアチブはACRAの外部作業および教会委員会の奴隷制の歴史的な不正への対応のための現行の資金調達として行うことができる可能性があります。

### 3.3 アングリカン・コミュニオン事務局の業務を拡張し、性やジェンダーに配慮した人間の尊厳を促進する

私たちはACC(関連するネットワークやACOの部門、Lambeth 1998決議I.10により通知)に対し、ジェンダー公正性に関するその業務を管区および管区間の視野にまで拡大し、ジェンダーだけでなく性別にも配慮した人間の尊厳に向けた対応を行うかどうかについて検討するよう呼びかけます。ACC-19で、この件について管区および管区間報告を受け、さらなる推奨を行います。

## 後注

- i. The Inter-Anglican Standing Commission on Unity, Faith & Order (IASCUFO) (一致・信仰・職制に関するインター・アングリカン常任委員会)、Created in the Image of God (神のかたちに造られて) : The Divine Gift and Call to Humanity (神からの贈り物と人間らしさへの召命) : An Anglican Theological Anthropology (アングリカン神学人間学) : Unity, Faith & Order Paper (一致・信仰・職制論文) No.3 (ロンドン: ACC, 2021), 9, 12, 14-25, 42 [https://www.anglicancommunion.org/media/460188/UFO\\_IASCUFO\\_Papers-3-and-4 - God-So-Loved-the-World\\_v2\\_en.pdf](https://www.anglicancommunion.org/media/460188/UFO_IASCUFO_Papers-3-and-4 - God-So-Loved-the-World_v2_en.pdf)  
Brian Brock and John Swinton版も参照のこと。Disability in the Christian Tradition: A Reader (キリスト教の伝統における障害: 読者) (Grand Rapids: Eerdmans, 2012); World Council of Churches (世界教会協議会), The Gift of Being: Called to Be a Church of All and for All (存在することの贈り物: 皆の皆のための教会になるよう召されて) (2016) <https://tinyurl.com/7kyvdnr>

- ii. IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 24。
- iii. International Commission for Anglican-Orthodox Theological Dialogue (ICAOTD) (アングリカン-オーソドックス神学対話国際委員会), *In the Image and Likeness of God: A Hope-Filled Anthropology* (神のかたちと姿: 希望に満ちた人間学) (“The Buffalo Statement (バッファロー声明)”, 2015), 5-12. Lambeth 1998, I.10c; IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 75-77。
- iv. IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 34-40。
- v. IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 24。
- vi. IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 10-11。
- vii. IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 12, 50-57。
- viii. IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 9-11, 30-35。
- ix. ICAOTD, *In the Image and Likeness of God*; Lambeth 2008, Section C (Human and Social Justice) (神のかたちと姿; Lambeth 2008, セクションC (人間・社会の公正)); Lambeth 1998, I.1, 2, 4, 5, 9, 14, 15; III.21, 22。
- x. IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 26-30。
- xi. IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 53-54。Jeremy M. Bergen, *Ecclesial Repentance: The Churches Confront their Sinful Pasts* (教会の懺悔: 教会は彼らの罪深い過去に直面する) (London: T&T Clark, 2011); International Labour Organisation (ILO) (国際労働機関), *Walk Free*, および International Organisation for Migration (IOM) (国際移住機関), *Global Estimates of Modern Slavery Forced Labour and Forced Marriage* (世界の現代奴隷強制労働と強制結婚の推定) (Geneva: ILO Publications, 2022)を参照のこと。
- xii. Lamin Sanneh, *Translating the Message: The Missionary Impact on Culture* revd. ed. (メッセージの翻訳: 文化に対する布教の影響) (Maryknoll: Orbis, 2009); Jehu H. Hanciles, *Migration and the Making of Global Christianity* (移住と世界のキリスト教) (Grand Rapids: Eerdmans, 2021); William L. Sachs and Robert S. Heaney, *The Promise of Anglicanism* (アングリカニズムの約束) (London: SCM, 2019)を参照のこと。
- xiii. Rowan Strong, *Anglicanism and the British Empire* (アングリカニズムと大英帝国) (Oxford: Oxford University Press, 2007); Ian T. Douglas & Pui-lan Kwok eds., *Beyond Colonial Anglicanism: The Anglican Communion in the Twenty-First Century* (植民地主義的アングリカニズムを超えて: 21世紀のアングリカン・コミュニオン) (New York: Church Publishing, 2000)を参照のこと。
- xiv. IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 52-54を参照のこと。
- xv. Andrea Peer and Sevil Omer, “Global poverty: Facts, FAQs, and how to help” (「世界の貧困: 実情・FAQ・支援の方法」)  
<https://www.worldvision.org/sponsorship-news-stories/global-poverty-facts>, 2021年8月23日 (2022年6月10日アクセス)。
- xvi. UN, General Assembly, 73rd Session (18 October, 2018–, Second Committee, Agenda item 24 (a), “Eradication of poverty and other development issues: implementation of the Third United Nations Decade for the Eradication of Poverty (2018-2027) (第73回国連総会 (2018年10月18日)、第2委員会、議題24 (a)、「貧困撲滅とその他開発課題: 第3次貧困撲滅のための国連の10年 (2018~2027) の実施)」、4。IASCUFO, *Created in the Image of God* (神のかたちに造られて), 12-13, 58-67。
- xvii. <https://sdgs.un.org/goals/goal1> (2022年6月10日アクセス)。
- xviii. 「極度の貧困」は、1日1.90ドル未満で生活している人々を基準とする。Daniel Gerszon Mahler, Nishant



- Yonzan, Ruth Hill, Christoph Lakner, Haoyu Wu and Nobuo Yoshida, “Pandemic, prices, and poverty (パンデミック・価格・貧困)” <https://blogs.worldbank.org/opendata/pandemic-prices-and-poverty>, April 13, 2022 (2022年4月13日) (2022年8月10日アクセス)を参照のこと。  
<https://www.un.org/en/global-issues/ending-poverty> (2022年6月11日アクセス)を参照のこと。  
 気候変動と移住パターンについては、Intergovernmental Panel on Climate Change, Working Group III contribution to the Sixth Assessment Report of the Intergovernmental Panel on Climate Change, “Climate Change 2022: Migration of Climate Change” (April 2022) (気候変動政府間パネル、第6回気候変動政府間パネル評価報告書作成作業グループIII、「気候変動2022:気候変動の移動」(2022年4月)、2-54~2-55、3-96~3-109、[https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg3/IPCC\\_AR6\\_WGIII\\_FinalDraft\\_FullReport.pdf](https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg3/IPCC_AR6_WGIII_FinalDraft_FullReport.pdf) IPCC\_AR6\_WGIII\_FinalDraft\_FullReport.pdf (2022年6月27日アクセス)を参照のこと。
- xix. UN, General Assembly, 73rd Session (18 October, 2018–, Second Committee, Agenda item 24 (a), “Eradication of poverty and other development issues: implementation of the Third United Nations Decade for the Eradication of Poverty (2018-2027) (第73回国連総会 (2018年10月18日)、第2委員会、議題24 (a)、「貧困撲滅とその他開発課題:第3次貧困撲滅のための国連の10年 (2018~2027)の実施」、3。
- xx. Lambeth 1998, 1.10 c, d
- xxi. Lambeth 1998 1.10 e
- xxii. <https://www.churchofengland.org/sites/default/files/2022-06/Church%20Commissioners%20research%20report%20final.pdf> (2022年6月28日アクセス)。
- xxiii. IASCUFO, Created in the Image of God (神のかたちに造られて), 75-77。IASCUFO, God’s Sovereignty and Our Salvation: An Anglican Theological Statement: Unity, Faith & Order Paper (神の統治と私たちの救い:アングリカン神学声明:一致・信仰・職制論文) No. 4 (London: ACC, 2021), 82-84を参照のこと。
- xxiv. 社会的保護とは、労働条件の激変から労働者を保護するために設けられる枠組みや制度のこと。社会的保護とは、雇用主が従業員とリスクを共有することを意味する。このような保護としては、年金給付、低金利ローンの利用、医療補助や無償化などの形がある。「リスク共有」の概念の詳細については、Truman Packard, Ugo Gentilini, Margaret Grosh, Philip O’Keefe, Robert Palacios, David Robalino, and Indhira Santos, *Protecting All: Risk Sharing for a Diverse and Diversifying World of Work* (すべての人を保護する:多様化する仕事環境のリスクの共有) (Washington D.C.: International Bank for Reconstruction and Development/The World Bank (国際復興開発銀行・世界銀行), 2019) <https://bitly.ws/zBmR>, 2022年6月21日を参照のこと。
- xxv. UN, General Assembly, 73rd Session (18 October, 2018–, Second Committee, Agenda item 24 (a), “Eradication of poverty and other development issues: implementation of the Third United Nations Decade for the Eradication of Poverty (2018-2027)” (第73回国連総会 (2018年10月18日)、第2委員会、議題24 (a)、「貧困撲滅とその他開発課題:第3次貧困撲滅のための国連の10年 (2018~2027)の実施」)、3。



# ランベスの呼びかけ キリスト教一致

最後に言います。皆思いを一つにし、同情し合い、きょうだいを愛し、憐れみ深く、謙虚でありなさい。ペトロの手紙一3:8

## 1 宣言

私たちのエキュメニカル活動のこれまで

- 1.1 100年以上前、アングリカン・コミュニオン主教らは、1920 Lambeth Conferenceに集まり、すべてのキリスト教徒への呼びかけを公表しました。その中で、目に見える一致教会の形で、すべてのキリスト教徒の一致を探る情熱的な希望が書かれています。このことは福音の和解の力を示し、すべての民を懺悔と信仰に導くものです。2022 Lambeth Conferenceで主教らが会合したことで、主教らのその呼びかけを新たにし、教会の一致を探る取り組みを始めます。
- 1.2 すべてのキリスト教徒への呼びかけは19世紀末に始まった世界的なエキュメニカル運動へのアングリカンの関りを強めるステップとなりました。それ以来、この運動は大きく進展し、異なるキリスト教の伝統の間の関係は変化してきました。もはや寄留の者や敵対者となる者はおらず、キリスト教の交わりと宣教を深めることに向けて大きく前進してきました。アングリカン・キリスト教徒は、南アジアにおいて複数の教会からなる連合体に加盟しており、世界的規模および地域規模の両方で会を挙げて取り組んでいます。私たちは、ユトレヒト同盟とのボン協定を今後も守り、一部のルーテル派教会などとの多くの良好な関係を維持します。また、世界教会協議会などの教派間団体への参加など、取り組みと対話に関する協定もあります。
- 1.3 エキュメニズムは今日、多くの形態があります。各教会が平和と公正の問題で協力することで、私たちの共通の生活と証しは計り知れないほど強化されてきました。各教会は環境と被造物の保護についてますます話し合うことが多くなり、協力するようになっています。私たちは、精神的なエキュメニズムの発展と、キリスト教徒が共に祈ることを歓迎します。その中には、Lambeth Palaceを拠点にした聖アンセルムス・コミュニティなど、意図して作られたエキュメニカルコミュニティのようなものもあります。

継続的課題

- 1.4 しかし近年、信仰と職制に関する問題で、一致運動の進展の速度が低下しています。教義の問題はかなり収束していますが、ガバナンスの形式に関する合意はより困難であり、教会内のガバナンスと習慣の形式については容易には合意できません。地方レベルでは、ルンドの原則（「信念が大きく違うために、個別に行動せざるを得ない」場合を除き、協力に向けて努力すべきであるという原則）が一般的に認められています。また、実行するのが困難なこともあります。
- 1.5 教会の不一致はキリストの体の内に継続する傷です。私たちは、洗礼を受けた人の中にある分裂が離反をもたらすことを残念に思います。私たちの sacrament と聖務を認め合うことができず、聖餐を分かち合うことができないことは残念なことです。このような分裂は、世界の多くの地域で、政府の規制や迫害、さらにテロのためにキリスト教徒の生命と証しが脅かされているとき、和解の福音に対する教会の証しを弱めます。



## 2 確言

### 私たちアングリカンの取り組み

2.1 シカゴ-ランベス四綱領(1886/1888)以来、私たちが目指す一致の目標は数多く定義されています。アングリカン諮問評議会(ACC-14, 2009)は、次のようなエキュメニズムの四原則を採択しました。

- 目標:教会の完全な有機的一致
- 作業:教会を互いに認め、受け入れること
- プロセス:段階的一致
- 内容:共通の信仰、 sacrament、および聖務

2.2 私たち、アングリカン・コミュニオン主教は、キリストの体である教会の一致に取り組む決意を今再確認します。私たちはペトロの手紙一を研究し、その結果私たちは、教会が神の被造物であり、1つの基礎となる石、すなわちイエス・キリストの上に築かれていたものであることを改めて思い起こしました。神の使命では、教会は1つの「選ばれた民、王の祭司、聖なる国民、神のものとなった民」であり、「(私たちを)闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある顕現を、広く伝える」よう召されています(ペトロの手紙一2:9)。

2.3 したがって、私たちは次のことを確言します。

2.3.1 アングリカン・コミュニオンの教会は一つの、聖なる、普遍的な使徒教会であること

2.3.2 アングリカン・コミュニオンの使命には、目に見えるキリスト教会の一致への取り組みを含むこと

2.3.3 違いはあるものの、私たちは他のキリスト教教会の聖務の実り、福音の布教への取り組み、そして私たちが生活の中で大事にしているイエスの sacrament の制度への誠実を認めること

2.3.4 協会活動のあらゆるレベルで、アングリカン・チャーチは、他の教会、教派および伝統から学び、学ぶことで恵みを受けること

2.3.5 アングリカン・キリスト教徒は、可能な限り、宣教と聖務について他の教会と協力し、神の意志であり私たちの召命である完全に目に見える一致を目指すこと

## 3 具体的要請(呼びかけ)

### 3.1 行動への呼びかけ

私たちは、コミュニオンのインストルメント、教会およびアングリカン・コミュニオンの人々に対し次のことを呼びかけます。

3.1.1 教会の完全に有機的な一致を急ぎ探る取り組みを新たにすること

3.1.2 エキュメニカル関係から成果を得、それを前進させること

3.1.3 各管区で他の教会と強固で密接な関係を築くこと

3.1.4 アングリカン・コミュニオン内の意見の不一致が、同じアングリカンの伝統の中にあっても、ばらばらの教会やグループが設立され、私たちの分断につながることを認識し、アングリカンの教会ファミリーの内部においても和解と一致を追求すること

- 3.1.5 他の教会の私たちのきょうだいたちと協力し、キリストの福音を告げ知らせ、世界のニーズに答える務めを果たすこと
- 3.1.6 迫害されているきょうだいたちとともに、きょうだいたちのために、そしてきょうだいたちに代わって発言すること。体の一部が苦しみを受けることは、すべてが苦しみを受けることです。
- 3.1.7 他者にとって何が最良かを考え、私たちのものでない伝統の富から何かを得ようとする事。
- 3.1.8 キリスト教会の完全で目に見える交わりの障壁となっている神学的・教会論的相違を、地域および世界レベルで克服するための対話の機会を追求し、可能であれば他の教会との交流関係を確立し、完全で有機的な一致の目標に向けて取り組むこと

### 3.2 エキュメニカル活動への参加のお願い

世界教会協議会の信仰と職制に関する文書である「教会：共通ビジョンに向けて (The Church: Towards a Common Vision)」には、エキュメニカル活動を、「信仰の一致」、「神聖な生活の一致」および「奉仕の一致」に向けての教会への召命であると述べられています (第67段落)。この精神の下、私たちはエキュメニカルパートナーに対し次のことを求めます。

- 3.2.1 キリストにおける生活の深さや多様性と、お互いから学んだことを理解できるよう私たちを支援すること
- 3.2.2 近くのアングリカン・チャーチと協力して、地域において福音を告げ知らせ、教会の生活を新たに、率先して共通の利益のために社会に仕えること
- 3.2.3 共通の信仰の遺産の豊富さと、神が異なる歴史と経験の内に授けた賜物を共有し、ともに働くこと (ペトロの手紙—4:10参照)
- 3.2.4 私たちと協力して完全で有機的な一致につながるステップを追求すること
- 3.2.5 エキュメニカル運動の成果に感謝し、私たちは互いに、生活と聖務の中で教会一致に向けて真剣に努力するようにし、すべての人は一つであるという主自身の祈りを常に思い起こすこと (ヨハネによる福音書17: 20)。

## 4 実施

- 4.1 加盟教会およびコミュニオンインストルメンツの内部においてこの呼びかけの実施を促進・監督する業務は、主にアングリカン諮問評議会がインター・アングリカン一致・信仰・職制常任委員会 (IASCUFO) およびアングリカン・コミュニオン事務局と協力して行います。
- 4.2 私たちはACCおよびセクレタリー・ジェネラルに対し、この業務を可能にするため十分なリソースが利用できるよう措置することを呼びかけます。
- 4.3 私たちはIASCUFOに対し、進捗状況を監視、監督し、定期的にACCに報告することを求めます。
- 4.4 私たちは加盟教会に対し、この地域の開発と課題について、ACOの一致・信仰・職制部を介して、IASCUFOに定期的に報告するよう求めます。



# ランベスの呼びかけ 宣教と伝道

## 1 はじめに

- 1.1 アングリカン・チャーチの主教職としてキリストに仕えるよう召された私たちは、この「伝道」の呼びかけを発表することを喜ばしく思います。
- 1.2 神の民は、「あなたがたを闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある顕現を、あなたがたが広く伝えるため(ペトロの手紙一、2: 9)」に、選ばれ、分けられ、備えられ、神の世界へ送り出されま。私たちは、キリストにある神の大いなる憐れみを受けており、「死者の中からのイエス・キリストの復活を通して、私たちを新たに生まれさせ、生ける希望を与えてくださり」そして「朽ちず、汚れず、消えることのないものを受け継ぐ者」とし、「天から遣わされた」聖霊によって満たされ、また私たちは、自分たちのために生きることも、天使たちが見たいと願ってきた美しい福音をすべての人に告知知らせよう、聖霊に導かれています。私たちの精神の団結や、恵みに応えて生きる私たちの暮らし、私たちの苦しみ、献身、奉仕、もてなし、希望は、万人の審判者として訪れる神を、すべての人がほめたたえるために在るのです。

## 2 宣言

- 2.1 アングリカン・コミュニオンのすべての教会は、キリスト・イエスによる神の救世の良き知らせを宣言するという召命を喜びに満ちた形で勇敢に共有しています。私たちの宣教の指標の1つ目は、私たちに次のことを約束します。御国の福音を宣べ伝えることです。
- 2.2 伝道とは、一度は亡くなられたが、今生きておられる方、つまりキリスト・イエスと、その方が築かれる神の国についての福音を宣べ伝えることです。聖霊によって力を与えられたすべてのキリスト教徒は、イエス・キリストの証人となるのです。

*彼らを恐れたり、心を乱したりしてはなりません。15 ただ、心の中でキリストを主と崇めなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を求め人には、いつでも弁明できるよう備えていなさい。16 それも、優しく、敬意をもって、正しい良心で、弁明しなさい(ペトロの手紙一、3: 14~16)。*

- 2.3 私たちのすべての宣教と伝道は、神の宣教から始まります。神は、創造と救済の愛の中で、私たちのためになることを選択されました。イエス・キリストは聖霊の力によって、すべての人々をご自分のもとに引き寄せするために、絶えず、忠実に、そして根本的に働き続けておられる偉大な伝道者です。教皇フランシスコは、「それは何よりもまず主の御業である」と述べられています。聖霊によって力を与えられた主は、ご自分の民を、良い知らせを伝える代理人として、ご自分と一緒に働くように召されます。
- 2.4 私たちのコミュニオンの全教会は、神の宣教に起源を持っています。597年、聖アウグスティヌスは、教皇グレゴリウス1世の派遣により、良き知らせを伝えるためにカンタベリーに到着しました。私たちのコミュニオンは、あらゆる国や文化において、キリストの良き知らせの召命と力を証明するものです。各教会が最初に設立されたのは、神がキリストの良き知らせを宣べ伝えるために誰かを遣わし、聖霊の力を借りて、それに応じる形で教会が形成されたためです。
- 2.5 監督者に召された者として、私たちは教会の宣教を導く責任を負っています。私たちは、すべての国のすべての人々を弟子とすることで、全世界に福音を宣べ伝えるというキリストの使命を担う、使徒的な表れなのです。





### 3 確言

聖霊によって私たちの心に注がれたキリストの愛に圧倒されて、私たちは福音が宣べ伝えている救いと贖いを受けることを世界が必要としていることを確信しています。それは、神が造られたすべてが、神がキリストにあってなされたすべてのことに信仰をもって応えることができるように福音を聞かせることなのです。恵みと憐れみ、悔い改めと赦し、和解と管理、希望と永遠についての良い知らせは、世界が聞くことなく消えつつあるメッセージです。しかし、福音はこの墮落した世界に向けられています。「神は人間を愛しておられます。神は世界を愛しておられます。理想的な人間をではなく、ありのままの人間を、理想的な世界をではなく、現実の世界を」(ボンヘファー)。神はその偉大な愛を持ってすべての人に呼びかけておられるのですから、この良い知らせを聞いたことのない人たちが理解できる形でこれを聞き、応えられるようにすることが大切なのです。聖霊が私たちの心に注がれたのは、私たちがイエス・キリストの忠実な証人として生きるためなのです。

### 4 具体的要請(呼びかけ)

- 4.1 各教区と各教会は、キリストの福音の驚異とその力によって、一新されるように熱心に取り組むこと。
- 4.2 各教区と各教会は、キリストの忠実なあかしと福音を忠実に宣べ伝えることに生きるために、聖霊の力のもと、祈ること、聴くこと、見極めることに取り組むこと。これには、福音のメッセージが受け取られ実を結ぶように、聖霊が心の中に働いてくださるように祈ることが含まれます。
- 4.3 すべての教会は、キリストの呼びかけに従い、すべての人がキリストの呼びかけに耳を傾け、これに従うことができるよう、キリストの良き知らせを意図的に伝えること。
- 4.4 すべてのキリスト教徒は、喜びを持ってイエス・キリストの証人となるよう召されていることを受け入れること。そして、その証しを通して、1年に1人の誰かが信仰に導かれるように祈りましょう。
- 4.5 私たちはアングリカン・コミュニオンとして、この働きのために互いに祈り、この呼びかけに耳を傾け、学び合い、励ましを共に見いだすことを約束します。
- 4.6 主教は、伝道を導くことができるよう準備すること。使徒的な例にならい私たちは、神の世界における神の民を、思い切った宣教で導きます。
- 4.7 各教区は伝道者を大切にし、訓練し、送り出し、受け入れること。
- 4.8 各教区は、まだ福音を聞いていない人々に福音を伝えるために、教会の活性化を行い、文脈に適した方法での新しい信徒の育成に、新しく創造的な取り組みをすること。
- 4.9 迫害を受けている教会が守られ、信仰を堅く守ることができるように、その証が支援されること。
- 4.10 私たちは事務局長に対し、伝道・弟子育成委員会の協力を得て、これらの分野における進展を支援し、フォローし、次回のACCで報告するよう求めます。



## ランベスの呼びかけ インターフェイス (INTER FAITH、異教徒間関係)

### 1 1はじめに

- 1.1. ペトロの手紙一が宛てたキリスト教徒のように、宗教が異なる世界では、教会はイエス・キリストにおける救いの福音の希望の証人であり(ペトロの手紙一3:15~16)、より広いコミュニティへの祝福と奉仕のしるしであり(ペトロの手紙一2:12)、敵意と迫害に直面して誠によってすべての人に現れたキリストにおける神の栄光への期待(ペトロの手紙一4:13~14)でもあります。

### 2 宣言

- 2.1 イエス・キリストが天に昇ったとき、イエスは弟子たちに賜物を約束し、そうすることで弟子たちは復活した主の命で力を得、「地の果てまで」主の証人となるようにしました(使徒言行録1:8)。
- 2.2 アングリカン・キリスト教徒にとって長く続く挑戦は、多様な信仰の人々と暮らす中で、私たちがいかにして神の世界のための神の教会になるのかということです。アングリカン・コミュニオンの一部には、洗礼を受けたり弟子の身分となったりすることについて自由があり、他の宗教を信仰する近隣の人たちも、パンデミックや気候変動など共通の問題に対処するような共通の利益のために協力することもあります。しかし、文脈によっては、アングリカン・キリスト教徒は敵視されたり、迫害されたりすることさえあります。このため、1998年のLambeth Conferenceにおいて、コミュニオンの各地域にわたって他の信仰と出会う経験を共有することを目的として、アングリカン・コミュニオン・インターフェイス問題ネットワーク(Network for Inter Faith Concerns for the Anglican Communion) (「NIFCON」)が1993年に設立されました。
- 2.3 2008年のLambeth Conferenceで、「寛大な愛:福音の真実と対話への導き」が提出され、受け入れられました。<sup>i</sup> 第二バチカン公会議の重要なローマカトリックの教憲である「ノストラ・エターテ」の考えから、Lambeth Conferenceは、「三位一体の神の教会のメンバーとして、私たちは、神の存在のしるしとして異なる信仰を持つ近隣の人々の間にとどまり、神の務めの代理として近隣の人々と関わるよう遣わされている」と認めました。「寛大な愛」は、アングリカン・コミュニオン全体でこのような存在と関わりの両方の形について文脈の多様性を認めるものであり、「マイノリティのコミュニティであるかマジョリティのコミュニティであるかや、脆弱な場所であるか安全な場所であるか、対話できる関係か緊張関係かなどに関わりません」<sup>ii</sup>
- 2.4 私たちの文脈がどうであれ、他の宗教的伝統の隣人たちはすべて神のかたちに造られており、キリスト教徒として私たちは他人を自分自身として愛するよう召されています。

### 3 確言

- 3.1 私たち、アングリカン・コミュニオンの主教は、2022年のLambeth Conferenceに集まり、そこでキリストのような誠実な奉仕と、さまざまな信条や信仰を持つ人々の間でこの福音を謙虚に告げ知らせることで、主であり救世主であるイエス・キリストの証しをするために私たちは取り組むことを確認します。

- 3.2 教会がユダヤ人の物語に根ざし、そこから恩を受けているということは、ユダヤ教との出会いにおいて、他の信仰との形成的かつ本来的な出会いがあることを意味します。このことは、共有されている聖書の中で最も明白です。私たちは、キリスト教とユダヤ人の関係の恥ずべき歴史が、神学、典礼および説教において反ユダヤ主義を拒絶し克服する特別な責任を教会に与えていることを認識します。
- 3.3 私たちは、「宣教の5つの指標」に対する私たちの取り組みが、キリストの内の神の務めにおいて、他の宗教的伝統を持つ人々との関係を位置づけるものであり、それが総体的な意味で理解され、それぞれの文脈と関係によってこれらの「宣教の指標」がいかに守られるかが決定されることを認めます。
- 3.4 私たちのコミュニティに影響を与える課題が増えつつある世界では、私たちが他の宗教的伝統とどのように協力して共通の利益を追及するかが、教会を越えた神の慈悲深い業への参加を証明することになります。新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、現代におけるそのような例の一つであり、さらに気候変動という差し迫った課題もあります。
- 3.5 教派内・教派間暴力の世界では、他の宗教信仰者である隣人との間で和解の仲介人になれるかが、福音の良い知らせの中心となります。平和構築の代理人になるという私たちの呼びかけは、他の宗教的伝統に対する偏見や憎しみを助長するおそれのある教会内のすべてのものを拒否し、克服する決意をするべきであることをも意味します。
- 3.6 宗教の自由や信念に対する制限が拡大し、キリスト教徒に対する迫害が高まっている世界では、アングリカン・コミュニオンが(寛大な愛の言葉の内に)いかにして「困難な状況で信仰の証しをしなければならないキリスト教徒に私たちの連帯を示し、支援する」<sup>iii</sup> ことができるかが、悲しみと苦しみを受ける内に、そして喜びと復活の内に一つのキリストの体の一部であるという理解に対する評価になります。
- 3.7 宗教の自由や信仰に対する制限が増大する世界において、キリスト教徒が他の宗教伝統のメンバーと協力して、自分の宗教や信念を変える自由や相互のアドボカシーを含め、これらの自由を守るという共通の目的をもって活動する機会が増えています。

#### 4 具体的要請(呼びかけ)

他の宗教的伝統や信仰を持つ人々と共通の利益に向けて協力し、宗教的社会を越えた友好的な平和仲介を行い、そして異教徒間関係のために苦闘しているキリスト教徒である私たちのきょうだいたちとの連帯に向けて私たちの取り組みに基づき、次のような呼びかけをします。

- 4.1 キリストの弟子である私たち全員は、言葉と行い、そして謙虚な奉仕を通じて他の宗教伝統を持つ隣人たちに証をすること
- 4.2 アングリカン・コミュニオンすべての主教に対し、地域の文脈において可能であれば、他の宗教の指導者との間で新たな友好関係を築くよう呼びかけをし、平和仲介と共通の利益のための取り組みのモデルとなること
- 4.3 他宗教のコミュニティの指導者に対し、気候変動その他の共通環境の課題に対応するための効果的な協働や、貧困を軽減し、社会的弱者への配慮をどのように実現するかについて共に考えるように呼びかけること
- 4.4 アングリカン・インターフェイス(異教徒間関係)委員会に対し、新しい世代のアングリカン学者・実務家への資金支援という観点から、アングリカン・コミュニオン全体の中でインターフェイス関係(異教徒間関係)を専門とする聖職者や平信徒の実務家による研究のための資金調達を呼びかけ、それによって他の宗教伝統についての神学的な学びの利益がより広いコミュニオンの使命の中で確言され、促されるようにすること

- 4.5 アングリカン・コミュニオンの主教と管区に対し、安全かつ可能であれば、敵対や迫害に直面している私たちのコミュニティとの間でつながりを構築し、情報交換や信仰面の支援、友好的連帯が生まれるようすること。また、キリスト教信仰に転向する決断において困難に直面している人たちを支援すること
- 4.6 キリストの弟子である私たち全員に対し、敵意に直面しても穏やかで誠実な証をし、他の宗教の隣人との強固な関係を作る努力を行っている、苦しむ迫害された教会のために祈るよう呼びかけること

## 5 実施

インターフェイス(異教徒間関係)委員会は次のことを促進・奨励します。

- 信仰を越えた新たな友情を呼びかけた結果をフォローアップする実際的方法(4.2)
- 他の宗教の人々との協働を呼びかけた結果をフォローアップする実際的方法(4.3)
- 研究奨学金の設置: 委任委員会がこれを監督し、博士課程や宿泊などの費用を対象とし、管区およびコミュニオン全体の学習と実践にフィードバックする。(4.4)
- マッチング方法の実用性: 連帯を求めている状況を特定する方法、これを非公式に行う方法: 既存の主教区とのつながりを基に構築するか、別に構築するか、または重複させるか。(4.5)

## 後注

- i. *Generous Love: the truth of the gospel and the call to dialogue, an Anglican theology of inter faith relations* (寛大な愛: 福音の真実と対話への導き, アングリカン異教徒間関係の神学)  
Lambeth Conference 2008、10ページ、[https://www.acommonword.com/wp-content/uploads/2018/05/Generous\\_Love.pdf](https://www.acommonword.com/wp-content/uploads/2018/05/Generous_Love.pdf) から入手可能
- ii. *Generous Love: the truth of the gospel and the call to dialogue, Generous Love: the truth of the gospel and the call to dialogue, an Anglican theology of inter faith relations* (寛大な愛: 福音の真実と対話への導き, 寛大な愛: 福音の真実と対話への導き, アングリカン異教徒間関係の神学)、  
Lambeth Conference 2008、8ページ、[https://www.acommonword.com/wp-content/uploads/2018/05/Generous\\_Love.pdf](https://www.acommonword.com/wp-content/uploads/2018/05/Generous_Love.pdf) から入手可能
- iii. *Generous Love: the truth of the gospel and the call to dialogue, Generous Love: the truth of the gospel and the call to dialogue, an Anglican theology of inter faith relations* (寛大な愛: 福音の真実と対話への導き, 寛大な愛: 福音の真実と対話への導き, アングリカン異教徒間関係の神学)  
Lambeth Conference 2008、10ページ、[https://www.acommonword.com/wp-content/uploads/2018/05/Generous\\_Love.pdf](https://www.acommonword.com/wp-content/uploads/2018/05/Generous_Love.pdf) から入手可能





# ランベスの呼びかけ 和解

主のもとに来なさい。主は、人々からは捨てられましたが、神によって選ばれた、尊い、生ける石です。あなたがた自身も生ける石として、霊の家に造り上げられるようにしなさい。聖なる祭司となって、神に喜んで受け入れられる霊のいけにえを、イエス・キリストを通して献げるためです。...あなたがたは、選ばれた民、王の祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある顕現を、あなたがたが広く伝えるためです。あなたがたは、「かつては神の民ではなかったが／今は神の民であり／憐れみを受けなかったが／今は憐れみを受けている」のです。ペトロの手紙一2:4～10

## 1 はじめに

神による和解の務めは今日の教会の務めです。私たちは、神の救いの憐れみとイエスの恵みを通して和解を願い、そのために努力します。なぜなら、それなしでは、私たちは疲弊してしまうことを十分に知っているからです。私たちは聖なる国民として贖われており、この和解を生き抜くために神と共に働くよう召されています。

## 2 宣言

私たちは、一のうちの三、三のうちの一の神を信じます。この三位一体の中では、父なる神、神の子、そして聖霊の中心に特殊性と統一性が保たれています。イエス・キリストの生、死、復活、そして昇天のうちに神は、肉となり、並外れた独特な方法で人間を顕わし、人間と和解することにより、離反し、ばらばらになった人間に手を差し伸べます。十字架上の究極の和解において、キリストにある神は和解に伴う費用と苦痛を証しておられます。それぞれが神のかたちのうちに独自の方法で、そして異なる文脈で形作られる中、私たちは神の和解の務めのうちに契約パートナーシップに導かれます。アングリカン・コミュニオンに顕れる私たちの違いは、解決すべ課題である一方で、神の経験を深めることにもなります。私たちが霊の力のうちにイエスを通して神の和解の務めに参加するとき、私たちの多様性は感謝されるものとなり、私たちの分裂は贖われるものとなります。私たちはキリストの体の内に作られているからです。このような全体の多様性の中で、私たちは神のかたちをより完全に映すことができます。

## 3 確言

3.1 相違を超えた関係は神聖で複雑なものになり得ます。私たちは、聖書、とりわけ2022 Lambeth Conferenceで焦点が当てられたペトロの手紙一は、国、教会、文化、または家庭のどれであった場合にも時の経過とともに権力を持つ人々により解釈され、他の人間の支配と抑圧の助けとなってきたことを認めます。私たちは、私たちの間や内に分断や、不一致、対立を生み出すシステムの参加者です。和解は、社会と教会において正義、責任、そして変化を必要とします。これらなしでは、抑圧と分裂は続き、それぞれの役割に関係なく、これらのシステムに捕らわれているすべての人間を傷つけることとなります。私たちは、聖霊が私たちに力を与え、鼓舞するよう願います。そうして私たちは、キリストの内、すなわち私たちの間、それぞれの中、神との間、そして被造物との間に正しい関係を求めます。

3.2 この呼びかけは、神の和解の務め、すなわち、教会の務めとして、キリストのうちに、そしてキリストを通して、私たちが神のもとに連れ戻す継続的なプロセスを改めて確言するものです。権力者は時に和解の話を利用して権力のシステムを維持し、公正と健全性への努力を阻害してきたことから、私たちはコミュニオン全体として、私たちの様々な文脈に顕れたこの務めに焦点を当てます。<sup>i</sup> 私たちが共に証をする中で、私たちは、Lambeth Conferenceで議題の中心になった行動、すなわち好奇心を持つこと、そしてそれぞれの他のユニークな経験について思い巡らすこと、互いに存在すること、注意して予断なく耳を傾けること、そして私たち自身の文脈を再創造することを通して和解行動を実践します。<sup>ii</sup> 私たちは、目に見えるか見えないかにかかわらず、生活のあらゆる面において和解を実践するよう努めます。



#### 4 特別要請(呼びかけ)

- 4.1 私たちは世界のアングリカン・キリスト教徒に対し、私たちをとりまく、そして私たちの間の分断、分裂、そして偏りの只中で、神に向かってキリストの憐れみと恵みの回復を祈ることを呼びかけます。私たちは、アングリカン・コミュニオンを通して使われている多様な礼拝に関わり、懺悔と再生に私たちを導き、神の和解の賜物に表現が与えられるよう促します。
- 4.2 私たちは主教として、利用可能な和解のリソースを利用して、このコミュニオン全体にわたる和解の実践に参加するよう、私たちの主教区を促すよう取り組みます。<sup>iii</sup> 私たちは、持続可能な開発目標についての「呼びかけ」とエキュメニズムについての「呼びかけ」を、神の創造と他の教派に関連する和解へのコミュニオン全体としての取り組みの例として確言します。
- 4.3 私たちは主教として、和解の務めに対する彼らの貢献を称え、彼らの希望を育むことによって次世代を励まします。私たちは、彼らの痛みや世代の痛みを耳を傾け対応し、和解の取り組みに彼らが十分参加できる場を作ります。
- 4.4 私たちは、アングリカン神学校とコミュニオンを取り巻くトレーニングプログラムで、新たな神学教育委員会やアングリカン・コミュニオン・カレッジ・ユニバーシティネットワークがサポートするものについて、キリストに従う者としての私たちのアイデンティティの基本として、和解についての教育と話し合いの場を設け、とりわけこれまで歴史的に影響力の小さかったコミュニオンの地域の神学者の意見を取り入れることを促します。
- 4.5 人種、文化およびカーストの痛みを認め、多くのアングリカン・チャーチで行われている真実を語る活動やこれら事実を判断する活動を通じ、私たちは各管区に対し、自らを見直し、それぞれの文脈およびそれぞれの教会において歴史的に、そして現在も軽んじられている人々の経験に丁寧に耳を傾けるよう促します。<sup>iv</sup> そして、私たちはコミュニオンのインストルメントに対しても同様に自らを見直し、経験に耳を傾けるよう呼びかけます。
- 4.6 私たちは神の和解における正義と責任の中心性を認識し、ACCに対し、アングリカン・コミュニオン内における植民地主義の遺産をよりよく理解し、問いただすための計画の大凡を描くよう求めます。これには、帝国主義的な前提に基づく宣教活動や、植民地主義に今なお加担している制度などが一例として考えられます。私たちは、ACCを通じて既に行われている活動の上にそれが構築されることを願います。
- 4.7 私たちはカンタベリー大主教と、そしてACC常任委員会に対し<sup>v</sup>、Lambeth Conference 2022に参加できない管区や主教区のきょうだいたちとの対話を新たに更新し、アングリカン教会ファミリーとして共に充実した生活を築けるよう求めます。
- 4.8 私たちはカンタベリー大主教、各大主教、およびACCに対し、深刻な紛争がある管区の公正と健全性を求めて努力する平和構築活動や人たちを支援する既存の資金調達の流れとネットワークを強化することを求めます。

#### 5 実施

- 5.1 私たちは、各管区が2025年のPrimates' Meeting(首座主教会議)までに独自に和解活動に取り組み、その経験と、歴史的に取り残されてきたグループの声に耳を傾けることで意見交換できるようにすることを求めます。<sup>vi</sup>
- 5.2 私たちは、神学教育委員会に対し、神学校が対話のための場を設けることを支援し、その成果をACC-19で報告するよう要請します。

- 5.3 私たちはコミュニオンのインストルメンツに対し、質問や教訓を各管区からとりまとめ、自己評価を開始できるようにすることを求めます。私たちは、2025年までに提案された行動についてそれらに対応することを期待します。
- 5.4 私たちは、ACCがACC-19において、植民地主義の歴史的遺産を新鮮な目で計画・研究し、帝国主義的な前提と慣行に今なお依拠しているおそれがある宣教慣行、そして植民地主義に加担し続けているおそれがあるシステムを問題として取り上げ、アングリカン先住民ネットワークや植民地主義の影響を今なお受け続けている他の人々と協力してこれを行うことについて、その進捗を報告することを期待します。
- 5.5 私たちはカンタベリー大主教の和解チームの平和構築部門が、アングリカン・コミュニオン・ファンドおよびアングリカン平和・正義ネットワークと協力して、深刻な紛争が発生している管区における平和構築活動および平和構築に携る個人の支援を促進するための方法に関する報告を大主教に行うことを要請します。
- 5.6 私たちは、カンタベリー大主教とACCの常任委員会<sup>vii</sup>に対し、ACC-19でLambeth 2022で私たちに加わることができなかった管区および主教区との新たな対話について報告するよう求めます。
- 5.7 私たちは、アングリカン・コミュニオン・ユース・ネットワークとカンタベリー大主教の和解チームに対し、和解活動への若者の参加を促すためのアイデアを可能な限り速やかに提示し、その後のACCで若者により達成された成果を称えることを求めます。

## 後注

- i. 私たちは、「和解」という用語そのものがある文脈において使われるようになってきたことを認識しています。たとえば、破壊された関係の特定部分を表したり、無益に政治化されるようになってきたことなど。私たちはまた、和解の概念が異なる文脈で異なって表現されていることに注目しています。たとえば、スワヒリ語には和解に当たる言葉はなく、代わりに双方が共に前に進むという概念があります。フィジーでは、和解は、赦しを贈り物として差し出すことで表現されます。それが謙虚に受け取られた場合、和解と受け入れになります。コンゴでは、この概念は、遺産共有を意味する言葉で表現されます。
- ii. このような慣習についての詳細は、Lambeth Conferenceの準備のために主教に提供された「対立する世界における聖務 (*Ministry in a Conflicted World*)」コースを参照のこと：  
<https://www.lambethconference.org/programme/ministry-in-a-conflicted-world/the-course/>
- iii. 参考文献としては、アングリカン管区や、アングリカン先住民ネットワークやアングリカン平和・正義ネットワークなどのアングリカンネットワークが推薦するものや、カンタベリー大主教の和解担当部およびその著書「*The Power of Reconciliation (和解の力)*」からの Difference コースが推薦するものなどがある。
- iv. 例えば、カナダのアングリカン・チャーチ、アオテアロア・ニューージーランド・ポリネシアのアングリカン・チャーチ、ザ・エписコパル・チャーチ (米国聖公会) における人種差別と白人優越主義に関する最近の研究成果などを参照のこと。
- v. 常任委員会は、全体会合間のACCの継続機能について責任を負う。
- vi. 参考文献としては、アングリカン管区や、アングリカン先住民ネットワークやアングリカン平和・正義ネットワークなどのアングリカンネットワークが推薦するものや、カンタベリー大主教の和解担当部およびその著書「*The Power of Reconciliation (和解の力)*」からの Difference コースが推薦するものなどがある。
- vii. 常任委員会は、全体会合間のACCの継続機能について責任を負う。

LAMBETH  
CONFERENCE



[www.lambethconference.org](http://www.lambethconference.org)  
[info@lambethconference.org](mailto:info@lambethconference.org)

会話をフォローする

[f www.facebook.com/LambethConference](https://www.facebook.com/LambethConference)

[t www.twitter.com/LambethConf](https://www.twitter.com/LambethConf)

[#LambethConf](https://twitter.com/LambethConf)